特220
444

婦人の神秘

本間俊平著

協和書房刊

始

特 220
444

本間俊平著

婦人の神祕

協和書房刊

影近者著

著者自筆

序

清純、敬虔にして健康なる婦人は地上の寶で御座います。殊に信仰と希望と愛を有てる母は、人生の光明にして人の子の生命勢力の根本であります。

私は五十年の長い間、種々の境遇にある男子、様々の女子の相談相手となり、其身神救濟のために御仕へいたしまして、一層婦人の大切なることを痛切に感じました。

本書は、所謂婦人問題を論議したものではありません。衷心より賢き婦人、清健なる婦人の來現を希ふ私が、到るところの婦人集會に講述した者と、必要に應じ起草した者を蒐集致したもので御座いま

す。刻下世情に不適當なるものなしとせず、然れども當時の感興皆な私の切なる願と祈禱の包含せるが故に訂正を加へず、其儘存することゝした。

今年、私の古稀の齡を迎へし記念として、出版せんことを友人の方々慫慂せらるゝが故に、畏友文部省圖書監修官宮瀨氏、協和書房瀨尾一雄氏の厚意に託し、鉛槧に附することゝした、編輯に就ては、大同製鋼株式會社中野琳三兄の援助を受けた事不尠、玆に記して各位の厚情を深謝す。

昭和壬午冬、目黑鷹番、方洋書屋に於て

著者識

目次

近く嫁ぐ令孃へ送りし手紙の一節……（三）
村井保固翁の養母光子の君……（六）
信ずる如く必ず成る……（一〇）
愛の發見……（一三）
婦人よ勤勞の庭に神を見出せ……（二一）
母の教訓……（二九）
人類更生の偉力……（三四）
聖誕節に依りて示現される兒童教育の大精神……（四五）
慈母の膝……（六〇）
活殺の魔力（母の信仰）……（六一）

ナポレオンの敗因を思ふ……（六三）
良女の創造……（六六）
母の信仰……（七〇）
服從の美德……（七七）
母……（八一）
惱める方々に……（九五）
愛……（一一四）
奥江清之翁の臨終……（一二六）
婦人の裏なる神祕……（一四〇）
賢き女……（一五一）
難關の突破……（一六一）

婦人の神祕

近く嫁ぐ令嬢へ送りし手紙の一節

地の上にて最も大にして且つ不思議なるは『妻の笑顔』であります。妻の笑顔は夫をして萬難に打勝つて餘りある能力を起させるものであります。加旃あらゆる患難を歡喜の泉と化する生命勢力の淵源となる者であります。

予は御身のために祈る。神の恵みに由りておん身が世を終るまで微笑の持ち主たらんことを、よし一切のもの皆失せ果つる不幸のおん身に臨むことあるも、笑顔を失はざらんことを。

『夫』として此の世に堪へがたき事のうち、不愉快な妻の顔を見る程辛らきものはない。人生各般の破壊は實は悉く妻の不愉快から起ると申して間違ひないので

ある。箴言に、『妻の相爭ふは雨漏れのたへぬにひとし、家と資財とは先祖より承け嗣ぐもの、賢き妻はヱホバより賜ふものなり』とありますが、こは實に深き眞理であります。

○

心しておん身が神より『夫』に賜へる温和微笑の妻たらんことを希ふと同時に其の寢床を清くして、苟合奸淫の牀とせざらんことを祈る。

予が今日迄教へられしところに據れば、『夫』をして弱行に陷れしめるものは、『夫』その者の不信仰は言ふまでもなき事なるが、實は寢床の神聖を失ひしものであります。おん身が信仰を失ひ、修養を忘りて清かるべき牀を汚して遂に地獄の創作者に墜落せざらんために予は祈る。

○

又凡そ人の妻たらん程のものは、『夫』の心を察知し、夫の事業に興味を有ち、『夫』の勞苦に同情を表する素養なかるべからず、予はおん身が深く思ひをこゝによせ、幾多の工夫と鍛錬あるを信ず。願はくば愈々謙りて賢き婦となり、神がおん身を婦人として此の世に送りたまへる天命を思ひ、其の高き聖待に副はれんことを。『個人の權利』『婦人の自覺』……議論のみに大眞理ありて惡魔に笑顔を掠奪せられ、家庭常に冷たく暗く、雨漏の家となるなからんことを。

神よこの婚姻を祝福したまひて、不朽の笑顔を惠みたまはんことを。

村井保固翁の養母光子の君

（人を造るは母の信である）

信仰の人、活人の一擧手一投足は悉くこれ眞の宗教である。眞の教育である。活人―翁に就きて語るべきものは餘りに多い。それは他日に讓り、茲には先づ翁を育て上げた母を語らう。而して先づ翁をして語らしめよ。茲に掲ぐるものは先年母に就きて予の質問に答へられしニューヨークより送り來りし翁の返書である。飾りなき書簡の中に現はれ來る母君、溫潤玉の如く謙和にして内に白鍊の鋼鐵よりも尙堅き確信あり、翁の爲人如何にも母に酷似せるものあるを思ふと共に、母の信仰の大切なるを今更の如く痛感するものである。ア、人の子は母の信仰の反

映に外ならぬのである。

本間先生　机下

奥様へよろしく願上候。

誠に申譯なき御無沙汰致しました。相變らず主のため、人のため非常に御骨折御流汗の事と存じ喜んで居ます。さて兼て養母の事につき何か申送れとの御命に對し幾度も筆を取らんとしましたが、どうしても筆が走りません、母の最も嫌ひの事は人様に自分の事をエラソーに云ふ事でした。どこまでも自らは蔭となり、謙遜にしてどうかして私を眞人間にしたいとの念願の外無かつた人でした。私に度々申されしことは、自分の事など人様に向つて賞めてくれるな、賞めらるゝ様な事は無いが若し幾分あつても決して死後に至つても必ず人様に云

ふでないぞよと申された言葉と其の容姿が今にも私の衷に殘つて居ますゆゑ筆を取つても走りません。なんだか賞めると叱られる樣な氣がします。

併し私を深く強く信じて、何事でも私の希望する事は良いと確信して、自分の兄弟でも、私の實父にでも、どうか、あれが東京へ行くのに反對して呉れるな、あれは必ず惡くならぬと信ずるとて誰が何と反對しても確乎動かず、只私を信じて下さつた事は今日に至るまで寸時も忘るることは出來ません。これ丈けは賞めると云ふ譯に非ず、只私の養母に對して日々の感謝であります。私の呼吸に信の力のいと强く活きて永く働く事を今更ながら感じ入ります。

私は明治十二年に森村さんに（故男爵森村市左衞門翁）小僧に雇はれて米國に來る前に、私の實印を森村さんに預けて以來、今日に至るまで三代に亘りてその儘に預けて居ますが、少しも不安を感じた事はありません。この人を深く信ずる力は養母の遺物と思ひます。又米國に於て、六十年餘事業を營んで居ますが、米國人の我社を信用して呉れて商賣が繁昌して居ますのは全く信の一字の爲めと思ひます。色々申し上げ度う御座いますが、私もどうかして六月頃には歸朝致したいと思ひます。さすれば久し振り拜芝を樂しんで居ります。先は延引ながら一筆申し上げます。

昭和十年三月八日

敬白

ニユヨークにて

村井保固

信ずる如く必ず成る（第九孫癒坊に就て）

昭和三年十二月二十八日午前第三時、私は長門秋吉山下の丸木小屋に目を醒まし、馬可傳第一章二九―四五節を熟讀翫味致しまして、シモンの岳母の手をとりて起したまへるイエスの姿を仰ぎ、如何にも行き屆いた癒の神を拜し、痛を和らげ傷を癒す力の持主とならなくては、多くの人の役に立たぬ事を深く思ひつゞけて居りました。

その夜東京で長女武子が男子安産との電信が來ましたので、癒と命名致しまして其の信ずる理由を長女に申し送つたのであります。

卽ち此の孫は所謂衞生演說家ではない。必ず誠の癒し手となつて、人の靈魂を癒す人となるのだと云ふ事でありました。

長女もこの一事を深く心に留めて喜んで居るうちに癒坊は僅か四十日にして大患に罹り、慶應病院の御厄介になり、國手の御用意周到なる幾十回の注射や樣々の治療を施していたゞきましたが、効を奏せず、一日の中度々呼吸が止まる樣になりました。然るに母は此の兒の天命を確信し、他日起つて人の靈魂を癒す程の者は、かばかりの病を突破し得るを信じ、且つこの兒の生命を大成伸長せしめんとせば、我が生命を與ふるも又厭はずとして看護に奮鬪しましたが、遂に癒は死んで仕舞つたのであります。醫師も看護婦も同情の言葉を殘して病室を去られましたが、武子は信念を棄てず、熱烈の祈禱と共に一生懸命按腹したのでしたが、熱心は起死回生の神藥、死にし兒はア、と泣き叫びて生き返つたのでありましたが、癒の蘇生と引き換へに母は永き眠に就き、私共に信ずる如く必ず成るの眞理

を敎へ示したのであります。

（癒坊は多くの御方の御同情に依りて祖母の懷ろに育てられ、只今尋常五年の級長を申付られまして、高輪臺國民學校にお世話になつて居ります。謹て感謝いたします。）

愛の發見

○

人生は日々夜々喜悅と感謝に充ち溢れ、報恩奉仕にいそしむべき筈で御座いますが、私は父母を一度に失ひ、子供を喪ひ、樣々の患難に逢ひまして、所謂一難を經る毎に愈々勇むべきに、修養なき身の悲しさに遂に生きる事が厭はしくなり、生を呪ふて其の死場所を玄海灘にしようか、佐渡の裏の方にしようかなど考へた事も御座いましたのです。それはお前の無信仰からだ、無氣力からだと御叱り下さるでせうが、私は事實さうした情けない峠を昇降して來た者で御座います。

此の不信の私の生涯の中で敎へていたゞきしことは何かと申しますれば、私共

が眞に生き甲斐ある生涯を送らんとせば、あらゆる者の中から愛を見出さねば駄目だと云ふ事でありました。『愛し愛さるゝもの』を持たなくては生きて行けないことを教へていたゞいたので御座います。

○

御承知の通り人生はある意味に於ては『發見發明の旅路』で御座いまして、今日まで種々の學者の大發明に由りて、どれ丈け人生が明るくなり新鮮味を加へられて來たか知れませんが、しかしさうした事にもまさる大なる發見は人生より『愛』を見出す事で御座います。

先づ我自身の衷から、我家族の一人々々から。我が住む町から、御主人の盡して居らるゝ御仕事から『愛』を見出さねばなりません。これを見出し得ざるときは歡喜も感謝も希望も信仰も湧き起らないのであります。

○

私の姉は私よりも貧乏で、私よりも無學でした。剩へ早く夫に死別し、誠にみじめな生活でありました。しかのみならず彼女は啞の男子を持つて居りました。さうした一面から見れば、彼女は早速三原山へでも行つて、消え失せた方がよさうに思はれた不幸に見ゆる生涯でありました。

然るに彼女は大なる歡喜と、又私共より見れば、實に不思議の希望に輝き、五十年の長き日月この子のために心の限りを盡し、人の親たる者の特權は、よし其の子が盲啞であらうと狂人であらうと、子の爲めに日夜心を碎く事であると言つて、愛の勞苦の中に、只愛する者のみ汲み得る靈泉を滿喫して、私に愛の何たるかを教へてくれて感謝して此の世を去つて行きました。

更らに感謝すべきは、姉が啞兒のために人知れず愛の勞苦を拂ふ樣になりまし

てから、姉の同情心の範圍は擴大せられ、彼女に接する程の人は平和と光明と感謝に滿たさるゝ樣になつて參りました。不思議なるは愛であります。たとへ死ぬ程の勞苦があつても愛せねばならぬものを與へられたことは實に神を與へられたので御座います。

○

私共親達は、子供を學校へやり、教育を受けさせ、そのためにうんと骨折つて居る樣に思つて居ますが、實は子供に由りて親なる私達が眞教育を受けつゝあるのであります。私共親達の眞の進歩向上の精神は子供を育てる事に由りてのみ創られる者であります。極端の樣でありますが、この外に私共の品性を開發進展せしむる者は無いのであります。手數のかゝる子供、重荷を負はせてくれる子供を與へられし者は、尙更感謝すべきであります。愛とはある意味では重荷の事を申

すのであります。これがなくては眞人間にも天國の市民にもなれないのであります。

○

又未來への門扉を押し開きて、私共を導いて呉れるものは『愛』であります。昔私はこの事につきてよく分りませんので惱んで居ました。

然るに私に實に不思議の一つの出來事が起つて參りました。それは生れて間も無い長男を急劇な病で失ひました。然るにこのムマ〳〵もオトーチヤンもまだはつきり言へなかつた幼兒の死は、天の使となつて私共を永遠の世界に導きくれました。現世よりも來世の心靈界に心を寄せる樣に、私の心を變へて呉れたのであります。其の後數人の子供を葬むるにつれて、かなり苦悶の波濤も襲ひ來つたのでありましたが、悲嘆の底に喜悅の泉湧き出でゝ愈々心靈界の消息を知るに至つ

たのであります。アヽ愛程不思議の者はありません。幼兒の死は大哲學者にも不可解の未來を私の心に實に鮮明にしてくれました。又一時的と思ひしものより、永遠の光明を確實に仰瞻せしむるに至りました。眞に有難き事であります。

○

しかし私共の人間愛計りでは、幼稚であり隨つて不完全でもありますから、私共は進んで絶大無限の神の愛を知らねばなりません。其の神の愛はキリストに於て圓滿具足して現はしていたゞいて居ります。私共は之を深く學ぶことが極めて肝要で御座います。

御承知の通りキリストの心に觸るゝ者は、只有難き神の御愛心に觸るゝ計りではなく、起つて神を愛するに至るの驚くべきキリスト心が、私共の心中に新しく生れ來るので、これ實に人類永遠の感謝であります。更らに言へば、どうした人

間の衷にも、神の姿を仰ぎ望む靈光が輝き來るのである。この光我が衷に宿りませんと人生は空の空なのであります。

これを學ぶには、先づ十字架の邊りを注視することも大切であります。視よここには一人の惡黨と言はるゝ人は譏つて居ります。又一人の人は御國に入らんとき我を憶えたまへと叫んで居ます。ペテロ、ユダは鷄の聲を聞きて泣くやら、首を縊つて死ぬやら、そこには泣き崩るゝマリヤ、默するヨハネ、見來れば悉くこれ愛の大饑饉、生命の大旱魃、堪へ難き寂寥であると共に實に人間界の一大パノラマであります。

然るにキリストは、この荒涼涯りなき原野とも見ゆる人心から、活ける泉を見出したのである。世々の預言者聖者等が未だ意識せしことなき驚くべき光、然り人類救濟の光を宿して居たのである。キリストは所謂罪惡深重不信疑惑寂寥極り

なき魂、地獄に墜ち行く魂を見出した計りでなく、このさびしい魂こそ天の御父卽ち神であることを發見し心の限り之に仕へたのであります。私は深く信ず。キリストは裏切者と言はるるユダを最後の一息まで愛し拔いた事を。所謂義人等が石もてなぐり殺すべき姦淫の婦人を、心からいたはり慰めし計りか、之を禮拜したであらう事を。謂ふところの聖人達が唾棄して共に道行くことすら厭忌し、顰蹙せしあらゆる人の子に、キリストは全靈全心を引きつけられ、これに接吻し、この魂に心から拜跪せしことを。アヽ人類の戀人はイエスである。眞の救世主はイエスである。誠の兄眞の姉はイエスである。私共祈りつゝ彼を心に迎ふべきである。

婦人よ勤勞の庭に神を見出せ

働かねばならぬ。宜い加減の事では許されない。否でも應でも其の最上最大を盡さねばならぬ樣に强いらるる事は、人々が厭がつて居り、又馬鹿らしく考へて居るのでありますが、神の恩惠とは實はこの事なのであります。如何となれば、人間の美しき德品とは樽節、克己、勤勉、剛直、滿足でありませうが、かゝる金銀的基礎的德性は、これは每日好むと好まぬに拘らず、爲さねばならぬ、まごついては居られない勤勞の中からのみ生れ來り又養はれ始めて我がものとなるのであります。

○

私は明治十八年の春(十三歳)大工の小僧となりまして、只今の福島縣北會津郡大戸村大字雨屋の石村に參つたのでありましたが、其の頃の大工の弟子は、親方に伴はれて、あちらこちらに轉々稼ぐのでありまして、親方の吸ふ煙草は其の働く家より葉を貰つて、弟子が毎晩夜業に刻むのであります。ところが私の故郷には煙草畑は無く、隨つて煙草の葉には石村で始めてお目にかゝつたので、これには閉口いたしました。時には左の手を深く切りまして二ヶ月も繃帶して居た事も御座います。又刻んで居るうちに、ひどく眼に泌みまして、涙は頰を傳ひますし、大工の弟子なのか、煙草屋の小僧に來たのか分らなくなり、馬鹿らしく厭でいやでたまらず、御免蒙つて歸國しようと考へた事が御座いました。

○

此の時私の心に動き來つたものは私の母の教訓でありました。私の母は私を十二歳、即ち故郷を去るまで毎夜抱いて寢て呉れ、そして毎晩短かい且つ力ある話をして聞かしてくれたのでありましたが、其の中なる『人間は自分の氣持の宜い仕事計り喜んで居ると役に立たなくなり、お仕舞には消えて仕舞ふ樣になる』との言葉を思ひ出し、これは大きに間違つたと思ひまして、心に大きな奬勵を覺へ勇氣が起つて參りました。それから二月程の内に煙草刻みが迚も上手になりまして、店から買ふたものより尙細かに刻む不思議な小大工だと言はるゝ樣になりまして、親方のみか、石村の人々が煙草を刻んで呉れと持つて集る樣になりました。星霜茲に五十餘年、今も私が會津に深き交りを結んで居る人の少くないのは、此の煙草刻みが緣となつたものが大半であります。

○

私の大いに喜んで居る事は、會津の生活にて煙草の事よりも、其の日の勤勞の中

に、神様が輝いて居る一事を教へられた事であります。強いらるゝ様な勞働の中に、好む好まざるを問はず、爲さねばならぬ勤勞の中に、神に咫尺し奉る王座を發見した事であります。

私がイエスを慕はしく思ふ最高の理由は、彼が病魔を逐ひ出し、疾風の如く、又迅雷の如く時に龍の如き驚天動地の大活動、王様は震へあがり、學者は眞青になりと云つた非常事件よりも、ナザレの無名の大工として、赤貧洗ふが如き家庭を負ひ、文句を言はずに日々の務めを忠誠に果した事であります。一日もいやがらずして其の日の勤勞を忠信と謙遜と愛を以て受け納れた事であります。この敬虔の姿は、十字架上になぶり殺しにされたよりも遙かに偉大であります。

私は今日までこの勞働の庭に默々として働くイエスに、幾度か涙を流し、感謝に滿ちて御禮を申上げた事でせう。日々平々凡々の仕事、時に無意味に感じたり、時には輕蔑して居ります日々の務、これを神の大命と信ずる者が人間第一等の生活する者であることを教へ示してくれた者はイエスである。ナザレの大工イエスである。有難い事であります。

○

私は常に思ふ、人間此の世に現はれし以來、イエス程勤勞を愛した者はなく、イエス程之を尊重した人は無いのであります。イエスが勤勞を愛した眞義が分つて始めて勞働は神聖となるのであります。『我は葡萄の樹、我が父は農夫なり』アア何たる深き且つ高き實驗ぞ。彼は鉋屑の中に靈肉一如の世界を發見し、木切れ鉋屑がその儘神の言葉であるを悟つたのである、加之、その日の煙りも立て兼ねる憐れむべき大工我自らの中から神の獨子を見出したのである、世々の預言者のあらゆる預言は我れ自身を指すことを發見したのである。嗚呼。イエスは實に偉

大である。

私の心はこのイエスに觸れて躍つたのである。枯木に花咲き亂れ、空網に魚介は充滿したのである。煙草刻みも、庭掃きも、雜巾掛けも、神の御用と信ずるとき、其の責任は宇宙人類の進展發達に甚大の關係を有し、そこに又所謂安養淨土のあることを知つたのみならず、無學赤貧、ありて甲斐なき如く思惟せし我も亦神の惠みに由りて神の愛子イエスの小弟なることを悟るに至つたのであります。大なる感謝であります。

○

心を用ひて新約聖書を讀む人は、必らず思ひ當る事でせう。イエスが起つて洽く天下に福音を宣傳せんとするや、十二人の使徒を必要とせられたのであります。併し、それよりも無名の大衆が心心に神を宿して、靜かに日々の勤勞を大切にする事を必要とせられたのであります。演說するよりも、土地を叮嚀に耕し、說敎するよりも家庭を守り、大慈善よりも舟と網とをお粗末にせず、其の日其の日を平和と感謝に充たされたる生活に由りて、神の榮光を現はすことを切に要求せられしことを。

路加傳第八章の記事には、惡魔に憑かれた人が癒されまして、お弟子らの中に加へていたゞき隨行せんことを願つたとありますが、イエスはこれを許さなかつたのであります。さうした事よりも故山に還りて農業に從事し、星をいたゞき月を踏み、心靜かに勤勞に服し、日常の仕事に忠誠なるはより大なる奉仕であり、天命であり、神の榮光であることを懇諭せられたので御座います。私共も謹みてイエスに聽き從ふところがなくてはならぬ。

昔窮乏其の極に達せし所謂異邦人ルツは、どうして大王ボアズの妻となつたの

でせう。可憐なる彼女は、正直の勤勞の百術に勝れるを知つて居たのであります。何處如何なる時にも神は正直の勤勞を嘉みし、之を貴ぶものと偕に在はすことを知りて、直ちに麥畠に下り立ちて額に汗したからであります。

新天新地こゝより輝き來るのである。」

母の教訓

私の母は何人より教へられてさうなつたのですか存じませんが、近道を通らぬ人でありました、私が幼少のとき、母があちこちの山林や畑で伐採致しました竹木や、刈り取りし麥や麻苧など運ぶ手傳ひして、全身汗だくで、山坂を往復するときでも決して近道を通らぬ人でありました。あるとき私が母に何故に近道を通らぬかと聞きますと、母は答へて近道や速成は人間の眞の道ではなく、さうしたもの計り喜んで居つては遂に滅亡して仕舞ふから一生涯速成人間にならぬ樣注意せよと訓戒して呉れました。

又私が母に抱かれて寢て居る頃、私の故郷は良寛和尙の居られし近所でありま

して、從つて沙門良寛に關する種々のお話が傳はり、良寛の揮毫は大層貴ばれて居りましたので、母にどの位習字したら良寛樣のやうに書けるものでせうと問ひますと、よい事を聞いてくれたとて大喜びで、今晩からすぐはじめて五十年撓まず屈せず習字つゞけたら良寛樣よりももつと上手にならうと申しました。この二つの事は、肝に銘じまして六十年近く守つて參りまして、大なる眞理の含まれあるを悟り、神樣が無學なりし母を助け、母を通じて私に敎へて下さつた事を感謝する者で御座います。

のち聖書を知りまして、『出埃及記』は興味深く、私自身の人世行路を數千年の昔に見る心地がする計りではなく、實に深刻痛切なる樣々の敎訓がいたゞけますので、數十回繰り返して居るので御座いますが、一つは母の『近道通るな』の敎訓が偉大なる光を放つて居るからであります。

○

六歳の冬の夜と覺ゆ。母につれられて私の故鄕西蓮寺樣に催された御法話の集ひに參詣させていたゞきしとき、御話の中に、『讀書百遍義自ら見ゆ』と敎へられまして、家に歸る道すがら母によい事聞かしていたゞいた、うれしかつたと申しますと、母も大層喜びまして、それはよかつた、今夜覺えさしていたゞいた其の一つを一生のお守札とせよと諭されました。後十三歳會津面川村加藤氏(目黑高等女學校長加藤因氏の生家)の火災に逢はれし御住宅再築の節、大工小僧として御手傳ひのとき、燒灰の中から『朱子訓學齋規』の燒け殘りを發見、讀んで參りますと、「讀書千遍其義自見」と云ふ樣な文字を見まして、先年の母の諭を十倍して、これから何書でもこれはと言はるゝものは千回讀まうと心に極めたので御座いました。

のち不思議な攝理に由りて、聖書を知るに至り、六十六卷中先づ以賽亞(イザヤ)書を壹千回通讀しようと念ひ、『董遇』の所謂『三餘』の教へに從ふことを心掛けました。もとより盲者の道中とも云ふべき無學無師の私。一人の牧師の來つて私を教へて下さるものなく、只流汗淋漓と云つた勞働の餘暇、磐塊狼藉たる石礦、清風吹き渡る叢、時に激雷はためき白雨大地を打つ荒天の岩かげ、血に啼きつゝ茂林の上を翔りゆく杜鵑、晩夏尙私の爲めに歌ふ季間を延長したかと思はるゝ鶯、これらが私のために天父の備へたまへる講堂であり、音樂であり、教室であつたので御座います。

今にして思へば、私程仕合せものはない。人々は社會の暗黑を觀て、嗟嘆憤慨、家庭を見過ぎては憤り、天地自然の清境に身を置くこと少く、ために神興去(インスピレーション)つて、失望悲觀の不幸兒たるもの夥しき中に、貧乏人私は何たる幸福でせう。夜未だ明けざるに誰に遠慮氣兼もなく咽喉破るゝ計りの大聲讃美を歌ひつゝ、茂林のこだまに送られて山上に達す、防長より九州一面莊美雲の海、山山小島の如き朝靄を俯瞰して神を讃む。清風來つて我が流汗を吹き拂ふ。其の快言ふべからずかくして土を運び石を割り、寸時を偸みてイザヤ書を讀み、明治三十五年の冬、長門秋吉山上に於て其の第壹千回を終らしていたゞき、豐かなる靈導を頂戴致したので御座います。

人類更生の偉力

私のこれまで考へますところでは、基督教の礎は何かと申しますれば、キリストの十字架であります。同時に全世界人類の恒久の礎石、又あらゆる社會の生命の礎はと申しますれば、キリストの十字架の精神こそ隅の首石であります。

これを離れますと、教會も社會も心臓を抜き去られたもので、如何に何事を計畫しましても、生命は無いのであります。而してこの生命の根本たる十字架を一番よく現はすものは何かと申しますれば、それは『母』で御座います。天地宇宙の間、『母』の姿ほど十字架に酷似したものはなく、否『母』と『十字架』とは同一であると申しまして過言ではないのであります。眞の母の涙と其の至誠の祈禱

は暗き子供を明朗にし、柔弱無能の人の子を剛健有爲の神の子と化す實に人類更生の偉力であると信じます。

○

現時代は力の貴ばれる時代でありますが、人の子の靈性の發揮力。人の子の精神を高くする力。これ力中の力であります。而して其の力は何に發源するか、この力は『母』の外には無いのであります。

又懊惱を癒す慰めの力。惡みを融和する能力。世界恒久の平和と人類の新なる幸福を生み出す力。これ實に絶大無限の力、又無くて叶はぬ力であります、かうした偉力は『母』を離れては出て來ないのであります。

母性愛は乃ち キリストの十字架の大精神、其の十字架は乃ち神なのであります。私は常に思ひ感謝の祈を捧ぐる第一のものは世に『母』を賜へる神の惠みであ

ります、『母』の祈なかりしならば、世は擧げて暗黑擾亂のみか、疾くに全世界は消え失せた事であらう。世界が幾多の矛盾、樣々の衝突論爭の中に、時に狂瀾怒濤の襲來と戰ひつゝも理想の世界を目かけて進む所以のものは、眞の『母』の祈の感化である。我らは祈る。『母』を賜へる天津御神に榮光限りなからんことを。

○

又思ふ。言葉は不適當か存じませんが、神樣はあらゆる場合に、働きたまふにはお手が廻り兼ねますから『母』をこの世に御與へ下さつて、神の大業を委讓代行せしめたまふのであると。

故に神樣に代つて、眞に人類の將來を決定する大きな力、無上の力を與へられて居る者は『母』であります。必ずしも、智者や學者やこの世の論者ではなく、又所謂權威ある者でもなくして、『母』であります。

『母』こそは眞に世を支配する確實な力を有つて居るので御座います。實に「母性愛」こそはキリストの十字架に次ぐ救の力であります。

鳥や獸の母は己が本能を其の子に生みつけるに過ぎませんが、人の『母』は、己が子供に最大最高の者、卽ち天地の神の姿を與へる驚くべき偉能を有つて居ります。人の子を神の子供とするの特權を有つて居るものであります。

「ゲツセマネ園その源をたづぬれば
純潔マリヤのなみだなりけり」

人類あつて未曾有のあの血涙血汗の大奮鬪は、若き『母』マリヤの至誠至情の祈りの反映その代理店であつたのである。而してかゝる無上の力と榮譽は、御一人の例外なく『母』に授けられて居る。『母』たる人よ、喜び感謝せよ。『母』よ踊れ、其の限りなき惠みを投げ捨つる勿れ。

○

生後十九ヶ月、全く廢人となりしヘレン・ケラー、このありて無きが如き者にすべてを捧げつくして五十年、死に到るまで捧げ拔いたサリヴァンは母ならざるに母となりました。ア、、婦人の心の奥には、我々男子の持たぬこの不思議な神の力が授けられて居ります。乃ち母ならざるに母となり得る力であります。私がこれ迄先夫人がお子様を殘して逝かれ、道に行き惱む主人に、幾人もお嫁樣をお世話せしことを知りし人々の中には、本間はあまりに婦人に重荷を負はせ過ぎる、無情の者であると憤つて居る人もあるさうですが、これはとんでも無い大間違ひであります。私がさういふことを度々致しますのは無情冷淡ではなくして、婦人に與へられてあるこの偉大なる神の賜物を承知して居るからであります。若し婦人がこの母ならざるに母となり得る力の惠まれあるを知りませんならば、所謂寶の持ち腐れどころか、實は婦人ではないのでありますから、係累ある家庭を嫌ひ收入多からざる主人を嫌惡し、遂に自分自身を輕蔑し、自殺以上の不幸の生涯を送らねばならぬ事になるのであります。これこそ何重苦か知れぬ人、否これこそ廢人である、深く心すべき事であります。

○

私が幾十年聖書を神の書として押し頂く譯は、聖書が種々の驚天動地の事實を傳へて居てくれるからではなくして、『眞の母』を示し敎へてくれるからであります。更らに言へば人や獸やら分らぬ憐れな人の子の中から、神の理想の子供を育て上げ、其の衷より神を喚び起して居る多くの母を敎へてくれるからであります。眞の敎育の根本が示されて居るからであります。

たとへば、ハンナの息子にサムエルが育て上げられました。これ天下第一等の

秀才優良兒、ほめちぎられし神童三十歳にして凡人のそれではなくして、神が現はれたのである。この兒に由つて、萬民の心の扉が開かれ來つたのである。

乙女マリヤからイエスが生れた。清廉無垢の聖賢のそれではなくして、萬民のための罪の贖、救の主が育てられたのである。ア、『母』其の愛は一切を克服し、あらゆる不可能事を堂々成し遂げしむる『母の愛』。ア、我等は『母』の前に只號泣あるのみ。感謝あるのみ。讃美あるのみ。

○

傳へ聞く昔チャレース・ワグネルは、巴里に遊びて哲學を修むるや、幼少時代の信仰は煙と消え、懷疑苦悶絶望の谷底に墜落し、幾年の間渇仰の念を滿たすに至らなかつたのでありますが、故郷に還らんとして、途にアルプスを過ぎ、幾千萬年安泰せる山巓を望みて、古への詩聖等が歌へる『神はわれらの避所また力なり』の詩篇中の一句を想ひ起して、大に悟るところあり、家に歸りて老母が貧窮の間に樂しんで家事に營々たるを見て謂へらく嗚呼人生の秘密は愛である、凡そ一生を捧げて愛する者のために人生の樂事是より大なるはなしと遂に一生を捧げて福音のために、社會のために身命を捧げ、佛國精神界の明星と仰がれたとの事であります。スピノザの哲學に於て、立命の地歩を得る能はずして淳朴慈母の胸中に神を見出したのである。有難きは『母』、『母』の裏には神が生きて動いて働いて居らるゝのである。

○

申すまでもなく、世に『母』の奉仕ほどキリストの理想に近いものはない。この奉仕こそ天地交通の秘義を教へ、人をして靈的存在者たらしむる高い力であります。『母』の務めたるや其の大部分は實に平々凡々。

又其の凡てが少しも報酬を望ますしてなさるゝので御座います。けれども聖書の中にある『このいと小き者の一人になしたるは卽ち我に爲したるなり』との神様の大なる賞讃をいたゞくものは、この平凡の母の奉仕である。これ實に最高最大の勳章である。名譽光榮とはこの母の奉仕の外は無いのであります。

地上に於て、神に見へんと欲せば、この無報酬奉仕の母を見よ。これ實に神の拜殿である。否本堂である。世には見ゆる『母』をよく見ずして、他の方法に依りて神を見んとする人が少くない。これ程大きな間違は無いのであります。所謂畑に蛤を掘るの愚に墜ちた者で御座います。

○

謹みて『母』たるお方々に申し上げます。眞の『母』善き『母』たるは實に一國の宰相にもまさり、全世界の富にもまさるのであります。又『母』たり得る望を有つ者は世のあらゆるものにまされる貴き特權を有せらるゝ人であります。

又彼サリヴアンの如く、母なき者のために母の務めに當らるゝ人々よ。其の務めは實に重大である。人間として最も光輝ある至高至大の特權であります。

ア、皆様、こゝに心を合せて私共の母を深く思ひたいので御座います。私共の母は私共のために其のすべてを捧げ盡して下さいました。しかも何をも求めませんでした。

唯私共の神様の子供らしい生涯を辿るを見て、無限絶大の喜悅に充たさるゝので御座います。皆様方の中には、既にこの世を去られし『母』、天上に在はす『母』を持てるお方も少くない事と存じますが、私共の『母』は今天より私共の今日の歩みをみそなはせたまふて其の正しき心がけ、其の强く生きんと奮ひ起つ姿をどんなにかお喜び下さつて居る事でせう。歡喜と感謝の涙にみちゝ溢れ、キリストと

共に心踊らせて居らるゝ事でせう。キリストも又我等のためには十字架に死して、自らは何一つ報酬を求めたまはず、唯我等が敬神愛人の生活を營むのを御覽になり、又出來ないまでも、何とかして神の子供らしき生涯を送らんと勵む有樣を御覽なされて、どんなにお喜びになつて居らるゝ事でせう。

神のめぐみ、皆樣と皆樣の愛する凡ての上にあらんことを！

聖誕節に依りて示現されたる兒童教育の大精神

〔一〕

聖誕節に際して、天の御父に感謝すべき事、又私共の深く考ふべき事項少からざる中に、大きな恩寵と教訓の一つは、人間の衷に人格のあることが鮮明に示されたる事であります。人格とは神が人間を通じて働き出すとか、響き渡ると言ふ風に考へられて居つたのでありまして、古き時代支那の聖人方の中に於ても、所謂『天に口なし人を以て言はしむ』とも考へられてゐたのでありますが、マリヤがイエスを生み、之を育てたる事實に於て、譬喩や詩歌的のものではなくして、人そ

のものを以て明かに現はれたので御座います。

〔二〕

『人格』の所有者たる人の子は どうして育つべきものか。卽ち兒童敎養の大本がクリスマスに於て示されたので御座います。萬民の龜鑑がこゝに惠まれたので御座います。これは實に生命よりも貴い人類の感謝で御座います。私がこれまでも度々申し上げます通り『凡てこれらの事を心にとめて思ひめぐらしぬ』、この聖句に由りて、若いマリヤが如何にも言葉少く、思慮甚だ深くして祈りの眞心に充ち、殊に懷胎するに當つて、一切の出來事を心靜かに思ひめぐらした事がよく判ります。

〔三〕

幼兒が母の懷ろに抱かれてゐる間に、神に祈る聲を聞かされなかつたら、どうして眞の人となる事が出來ませう。

マリヤの行狀を見ますと、誠に婦人の手本、母たる者の模範、人類の救主と崇めらるゝ『神の人』を生み、且つこれが訓育を完うする偉大なる器であつたことが現はれて居ります。有難い事で御座います。

● 古き神學者はイエスの誕生や、其の育ち方は太初より神の定め置かれた筋書に由りて運ばれたかの如く考へて居りますが、私はさうした芝居じみた考へ方よりも、マリヤが祈りの心に充ち、思慮深く信仰厚きため、裏長屋の貧乏大工の子を神の子にまで育て上げ得たものと考へて居ります。世に芽出度きは婦人の信仰である。

〔四〕

婦人の衷にはかゝる驚くべき、且つ敬服すべき敎育力、訓育的生命、二葉の如

き人格を育て上げて遂に棟梁の偉材たらしむる神の力が與へられて居る事が、マヤに由りて現はれ來つたので御座います。

神様は婦人の衷に、實に私共男子が夢にも想ひ得ざる不可思議の人格創造力、又完成力を賦與して居らるゝので御座います。

丸太小屋に、犬の子と大した違ひなかりしアブラハム・リンカンをして、大統領の器となし得る偉い能力を、母に與へて居て下さるのであります。即ち、『となる能力』『となし得る偉力』が母に與へられて居るのであります。

〔五〕

子供は其の母に由りてのみ人の子より神の子と進むのであります。母を清くし高くせずして、所謂教育したからとて、人を造ることは不可能であります。

私は神御自身、男女牀を共にする時より、女子と協同したまひて、子供の教養

完成に力を貸し、知識を惠み、容易ならざる努力奮闘をなしたまひつゝあると信ずる者で御座います。

聖書にはこの邊の消息を、通常の人間の俗事としてはならぬと考へましたか、聖靈の夢物語の様に書き現はして居ります。即ち夢に聖靈の導きを受け、暴君の猛擊を脱がれんとて嬰兒を抱きて東に走り、或は西にかげ廻り、千辛萬苦尋常ならざる骨折に由りて嬰兒の安全が保たれた事が記されて居りますが、私共はこれを幾千年の昔話としてはなりません。これを深く心に留めなば、昔ではなくして、今現にこの惠み深き神が私共夫婦と偕に居たまひて、忝けなきお心をもて私共を導き、心の扉を叩きて道を示し、一生懸命努力して下さるお姿が髣髴として現はれて參ります。思はず知らず頭が下つて參ります。神よ偕に在はしたまふを謝すとの祈りが心から湧き出るのであります。

〔六〕

子女の教養にあたつては、殊に子女の言ふ事、爲す事、動くこと、遊び戯るゝこと、喧嘩口論でも輕蔑視することなく、深く心に留めて、思ひめぐらして、神に祈ることが教育の大根本であります。

親が自分の氣に合はぬとて、輕々しく叱りつけ、殊に罵り倒す如き事があつてはならぬ。

私の母が私の幼き折、よく良寛和尚が越後出雲崎の磯邊に坐りこんだり、或ひは巖に腰かけて食事もせずに考へ込み、荒磯海（ありそみ）と向に見ゆる佐渡の島を眺めて、日の暮れるのも打ち忘れて居た樣子を語り聞かせて呉れましたが、これを外面より見れば、全く狂人の樣であつたらしい。しかし私の考ふるところでは、良寛和尚を造つたものは、のちにあちこちで修業した事やお經を習つた事はむしろ枝葉

であつて、眞の良寛和尚を教育したものは、この出雲崎の海岸の美しき天然であつたと存じます。

〔七〕

良寛和尚どころではない。イエスはナザレの山上に靜思默考して、其の指呼の間に點々散在する幾多の古戰場、幾百千の益荒男（ますらを）達が一日も早く理想の國を來らせんと念願こめて、埋め草となりし兵どもの夢のあとに思ひ耽り、神樣が我を用ゐて、この幾多の犧牲の大願に應じたまふを信じ、時にはイザヤを越へ、アブラハムを乘り越へ、天地開闢の彼方に、心の飛行機を飛ばして神と天地の經營を談じた事であらう。私はこの幼時のイエスを思ふ毎に、心魂天外に飛ぶを覺ゆること幾十回なるを知らず、實に天地融渾の一大偉觀である。人間靈性の一大壯觀であります。

〔八〕

イエスは見渡す野も山も尙未だほの暗きにかゝはらず、彼方に早く旭光を冠くヘルモン山を望み、やがて人類大救濟の黎明來る、否我が心の衷より生ると歌つたであらう。あゝ其の歡喜と光明とが、我が手、我が腕、我が心によりて實現するを思ひ、思はず知らず喜び踊り上つたであらう。時に十錢のお小遣をためるに一年もかゝりし母より與へらるゝお小遣を友達を呼び集めて皆御馳走して仕舞つたであらう。岩を鼓とし、麥笛を吹きつゝ、汝等喜び踊れ、神の國は古へにあらず、又遠き未來にあらずして、今歌ふ我が衷より輝き來るぞ、汝等踊れ喜べと物狂はしく叫んだであらう。

夜未だ白まざるに、ナザレの岩山は一大祈禱場と化し、神人合同の祈りと化し、時には號叫場と變じ、時には萬民に代る贖罪の祈場となつたであらう。村人の誰彼はいまいましがつて、あの貧乏大工の子、氣狂ひ小僧、又踊りやがると怒つたことであらう。

正にこれ熱血少年、斷食小僧、時には良寛千倍の沈默大工……かうした子供を正しく理解するは容易の事ではない。この正解者は男では駄目であります。男では、子供は分らないのである。男はこんな子供ならば直ぐに困つて叱り飛ばし、罵倒し、散々ぶちこわして遂に感化院送りで幕であらう。

〔九〕

靜かにして思ひめぐらす眞の母性愛のみ子供を正しく理解し得るのである。神と母性愛の外子供は分らないものであります。こゝは無用の者入るべからずの繩張りの境地があります。秘密の地域があります。そこらの學校で、御規則的に育てられた教員などの分る天地では無いのである。

マリヤのみ、この狂熱兒を正しく解し得たのである。嗚呼彼は偉大な母、實に教育母である、世に生理的母で止まつて、教育母でないものが餘りに夥しい。こは實に悲しき事の極みであります。

神はこの悲慘を救はんとてマリヤを人類に與へたまふたとも言へる。萬づの人々心してマリヤの如き教育母たらんことを希ふべきである。でないと、寶の持ち腐れどころか、幾人子供を擧げたとて、暗黑が增大する許りであります。

〔一〇〕

イエスはこの理解ある母の大なる心、眞の母心に導かれて成長したのである。見よや神と人とに愛せらるゝ理想の少年イエス。ふた葉より香ばしき栴檀の姿。

彼は靈眼透徹し、少年にして老年の心を解し得たのである。貧乏の極に居ながらよく富者の心を解した。世にイエス程富める者を正解した者は一人も無いのである。他は悉く富者罵倒者である。或は嫉妬怨恨者である。

イエスは其の日の暮らしも樂でなかりし我が母の苦心を正解すると共に、萬世萬代あらゆる人の苦痛の何なるかを知つた。

イエスは天の父の喜び給ふ者の何事なるかを深く知つた。同時に其の悲みの如何なるものかを悉く知つた。ヨブや釋迦の知らざる人類苦惱の鑛山の奥の奥底まで採掘したものはイエスである。イエスに膺る者其の心に言ひしれぬなつかしさを感ずる。之はイエスが人情の至極に徹して居るからである。其の喜憂深く神に到達した苦勞人でなくては、人の子にかうした深い限りなきなつかしさを、與ふることは出來ないのである。

〔一一〕

更らに驚くべきは、イエスが罪人の心に代り得た事であります。大聖何某、大

學者何某に觸れたとて、罪人の心は愈々重く愈々暗くなる計りである。しかのみならずイエスは性を飛越し、處女ともなり得た、母ともなり得た、進みに進んで純情偉大天の父の心に替り得た、眞に一大不可思議萬民の理解者となつたので御座います。

嘗て私は『子供の心に親達が一向自分を理解して呉れぬと感じた時は、非常に苦しい計りか此の時子供は精神的死を來す』と申しましたが、しかも私共は毎日この危險を子供に與へ、殺靈罪を犯し易き者であります。よろしくマリヤの理解心に學ぶところありて、神に榮光を歸し奉るべきであります。

〔一二〕

子供を理解し得ざるは、人生の破産者であります。子を失ひ、自己を失ひ、否天地の神を失ふ一大不幸を招來する者であります。

神様はマリヤを以て、實に最上の教育者の儀範を私共に示し下さつた者であります。これクリスマスの一大感謝であります。

かうした母の子であつたイエスは、どんなにうれしい日を暮したでせう。この歡喜は人類のあらん限り、汲めども汲めども盡きぬ生命の泉となつて、永遠に續くのであります。

イエスは喜びに滿ちて、毎日感謝した。私の親はどんな事でも理解して下さる。神のおんため十字架に殺されても、我が心事を疑はぬ親である。さう言つて毎日うれしさうに微笑し通したのである。

アヽイエス自身は馬槽に生れても、生涯貧乏でも、この理解ある母を與へられたことは最上最大の惠を受けたのである。善き母は善き大天地であります。一大新世界である。これに比しては宇宙もからし種に外ならぬのであります。

ア、芽出度きイエス……理解ある母……を與へられて、『我が惠みは汝に充ち溢れたのである』これ實に家庭教育の一大勝利、人生の大勝利、兒童教育の一大秘訣であります。

〔一三〕

申すまでもなく、クリスマスは色々の意義の御祝ひであるが、私は子供は神の子であるぞと教へたまふた大なる惠みの日であり、母の信仰に依りて、人の衷より神の姿が現はれ來るを教示された人類最大の慶祝日であると存じます。

子供のために苦しむは、眞に人の幸福であります。子供のために人知れず泣いた母でなくては母と言へないと云ふ程のものが勞苦の中に藏されて居ります。

私共の天國に至る途も、子供のために盡す中にのみ開かれ來るのであります。この外極樂に到る途は無いのであります。

考へ來れば我が人格、我が眞人間の面目發揮進展もここにあるのであります。否世界人類の浮き沈みも、我子一人の教育に係つて居るのであります。

心してこの日の眞義を考へ、眞に子供を育て得る親たらんことを祈願して、天父の聖待に副ひ奉りたいものであります。願はくば

いと高きところに榮光神にあらんことを
地上には平安、
人には恩澤あれ

と心から歌ひたいものであります。

慈母の膝

間口一尺二寸奥行八寸―九十六平方寸―(私の妻の寸法)で、其の實全宇宙よりも廣大なるは母の膝であります。

ア、有難き母の膝よ、無限の同情、永久の勇氣こゝに與へらる。絶大の奬勵ここにあり、鬼をも拉ぐ健康こゝより與へらる、永生こゝにあり、眞の宗教と眞の教育こゝに湧く。

ア、九十六平方寸よ、爾は我がための大教會、大講堂、大教室、大運動場である、母の膝を賜へる神に榮えあれ。

人の子よ歸れ。萬人拒絶するも慈母の膝のみは神と共に永久に汝を抱き上げん。

活殺の魔力（母の信仰）

宇宙間に於て不可思議のもの又驚くべき能力あるものは母の信仰であります。母の信仰母の理想は天地破るゝも其の子供に依つて必ず實現し來るのであります。

故に皆様がお子様をお育てなさるのに、たとひ誰が何と言つても、此の子供は全世界の人々に關はる大きな貢献をなし能ふと信じてお育てになりますと、其のお子は千艱萬難と戰つて必ずこれに打勝ち、其の母の信じた通りに大きな働をする人になるのであります。申すまでもなく、信は活物であります。

故にもし其の母がこの子は駄目だ、この子は迚もこの家など相續出來さうでな

いと言つた風にグニャグニャして居りますと、その駄目だ駄目だも一種の信であります、お子たちは母の御注文通りよたものに化けて仕舞ひます。人の子を神の子とするも、惡魔の子とするも母の信如何に由るのです。

母の信仰、これ實に生殺與奪の驚くべき、且つ恐るべき、且つ歡ぶべき、光であり力であります。

ナポレオンの敗因を思ふ

予は思ふ。ナポレオンが戰に勝つた原因眞義は婦人であつた。彼が連戰連捷はフランスの婦人よりも、低き婦人の國と戰つたからであります。

今日の英國婦人には心細く感ずるが、此の時の英國婦人は色彩は古かつたでせうが、心の修養は高かつた。少くとも佛國の婦人よりは秀でて居た、ネルソン提督の大艦隊。オートルローの戰よりも、此の婦人の心の高きはナポレオンの苦が手であつた。今日までナポレオンに關する幾多の書物が現はれたが、ナポレオンが優秀婦人にど膽を拔かれた眞相を詳細に述べたものは無い。少々あつても甚だ淺薄なものである。

○

ナポレオンはドバー海峡の問題よりも、大艦隊造成よりも、婦人の心の高きには閉口したのである。否これに出逢つて精神的に救ふべからざる深淵に投げ込まれ、人からは偉らさうに見えたでせうが、心靈的には死んで仕舞つた者であります。トラフアルガーやエルバの島、オートル・ローやセントヘレナ、かうした騷ぎは、もう死骸や幽靈が引きづりまはされたに外ならぬ。

今更言ふまでもない。天地宇宙の間に眞の婦人の心より高いものはなく、又强いものはないのである。婦と云ふ文字は、女が拭き掃除する役目を受け持つて居るから女と箒を合はせたなどと言つて居ますが、お臺所の掃除もしませうが、眞の女は人生のあらゆる妖雲を掃ひ除け得る偉力を持つて居るから、かうした文字が出來たのである。

ナポレオンは、この高き女性の心の山に出會つて進めなくなつて仕舞つたのである。

○

昔さうであつて今日も尙然りである。今日支那が情けなき狀態に立ち到つたのは、無論種々樣々の問題からであらうが、其の大きな原因は婦人の精神が段々低下し來つた事であります。其の精神が弛緩し來たつた事であります。

殊に蔣介石夫人が、米國式敎育を受け、米國人が我が日本を大割引し低劣視して居る氣分を受けた事は、支那をして救ふべからざる死地に墜としたものと言へる。我等は銃後の大問題は何事よりも婦人の心靈向上にあるを思ひ、其の敎育に大なる革新を起さなくてはならぬ。何となれば國の一切の眞價は、婦人の精神の高さが其の尺度であるからであります。

良女の創造

皆様。

これまでの人では役に立たぬ、もつと良き人とならねば役に立たぬ、新しき時代が近づきつゝあります。

人が良くなる根本、國民が一大飛躍する原動力は、先づ皆様が御自身を最も良く創造する事であると存じます。良女とならべて娘と云ふのでありますが、皆様が眞の『娘』を自覺し、所謂娘盛りの一時的のものではなく、永遠の良女を完成せんといそしまるるとき、健康な女、敬虔淑德な女が副産物として日夜に造り上げられて行くので、これほど國家に對し社會に對しての大御奉公はなく、これ程

芽出度いものは無いので御座います。

字を書きしついでに、も一つ字を書かせていたゞきます、少女とならべますと『妙』と云ふ字であります。私の妻は昔日蓮上人様が佐渡へ流されましたとき、お供した家の子孫になりますので、私も少々妙法蓮華經などをめくらの垣覗き的に、讀ませていたゞきました事も御座いますが、一切衆生悉皆成佛の大信仰が說かれてあるいとも有難き福音、佛道最高の大經典の頭に少女が輝いて居るのであります。

○

私などよく分りません者ですが、察するにこのいと有難い經典、人に譬えて見るならば、純情純潔あなた方の様な少女、明朗善美の極みの姿が少女であるから、最高の意味、完全の極致、富士山の絶頂と云つた意味で用ゐられしものと存じま

す。

どうかかうした芽出度き御自身の幸福を自覺し、永久無限の少女たらんために、御自分を完成する樣盡していゞきたい。

『良女』『少女』これ女性最大最優のモデルであります、世に何が貴いとて美しいとて、師友の誇りも國民の誇りも、純眞明朗にして友愛の情濃き女子以上の寶は無いのであります。

○

私はこれ迄所謂不幸の婦人とも、かなり懇意にして來ましたが、かゝる一大不幸が、何故にこの人に臨みしやと考へますれば、女子の尊貴が自覺されず、少女が法蓮華經の其の上に位する眞に忝けない有難いものであるを悟らなかつたのが、過失の原因であることを知りました。

私は思ふ。凡そ女としてこの世に生を享けられし方は、只御一人でも永遠の良女として輝き、無窮の少女として萬民に喜ばれ得ざるものは無いと信じます。

どうぞ此の希望を以てどこまでも勇み進んでいたゞきたい。

母の信仰

偉大なるものは母の信仰であります。母が眞心籠めて念願する事は、必ず必ず其の子によりて地上に實現し來るので、天地が廢せてもこの事計りは間違ひないのであります。

明治十六年の夏（私の十一歳の時）私の故郷越後の間瀬村に、京都本願寺様の御本山の方からか、村の西蓮寺様の御企てであつたか存じませんが、一民家に（御寺が燒けまして、御再建工事のため）蓮如上人様の御一代記様の小さきお人形をならべて、村民に拜觀を許された事が御座いました。

私は母に連れられて、くわしく拜觀したのでしたが、母は蓮如上人様は親鸞様

より八代目のお方で、應仁の亂で天下麻の如く亂れたとき、八十五年間草鞋を脱がず國々を遍歴して、山々谷々を廻り、人心を鼓舞激勵された御方であるとて、手を合はせ涙をホロ〳〵と流して話して聞かしてくれました。

○

又上人のお母さまが、僅か六歳の上人と離別せねばならなくなつたとき、上人を膝の上に抱いて徒らに悲歎に暮れてはならぬ事。母は形に於ては一しよに住めないが、靈に於ては必ず〳〵お前の側を離れず見守つてゐる、どこに居つてもお前のすきな「南無阿彌陀佛」と御名を唱へて居る、（後年僧侶のお方から教えていたゞくところでは、子守唄と申されます、どちらが眞かは私の手の屆かぬところで御座いますが）淋しがらずに、お前もお念佛を絶えず唱へよ、お前はお上人様の八代目の血統をうけ且つ大なる天職がある、大上人様の教を一生涯かゝつて、

世の人々に傳へよと說き聞かされたとの事でありました。

○

幾多のお人形を前に母の涙ながらの上人様のお話はありがたかつた。見る〳〵このお人形がさながら生ける上人様の様に活動する如く感ぜられ、泣いて居る我が母やら蓮如上人のお母様やら分らなくなり、一つの母になつてしまはれしごとく感じました。人の眞心はありがたいものであり、時を飛び越し、人形が靈動し、我が母、上人様の母と化して行く不思議な有難い世界を感知させていたゞきました。(私はこれを記しつゝ度々はふり落つる涙を拭ひました)

のち僅かにして、私も母を離れ、かなり波濤荒らかりし過去の五十餘年の生涯この時の母の涙の物語りがどんなに私を激勵した事でせう。どんなに暗黑に包まれましても、私がこの場面を想ひ起しますとき、光はかゞやき新力は振ひ興り、

萬難を感謝して起ち上つて參りました。

あゝありがたきなつかしき上人様御一代記の展覽會よ、私の靈を救はんために開かれしを思ふて、如何にも豐かなる天恩感謝に堪えず、人の子の母の何なるかを我に敎へんために催されしを追懷し無量の感に堪えず。

○

蓮如上人様ははたして母の信心の通り、一生涯を傳道に捧げ、生き如來様の如く、今も輝いて居られます。

キリストは其の日の煙りも立てかねし田舍大工の小伜、けれども若き母マリヤの信念、『この子は必ず全世界人類の奉仕者たるべし』『我を殺す者をも愛し抜く子供』と信じて育て上げたのでありますが、若き母の信念そのまゝの救ひの君となつたのであります。

本能としての女性は弱い、然り彼は愛のために弱いのである。併しながらこの弱きは實は天下第一等强靱なのであります。母が子を思ふとき、其の愛の高さは神と類を同ふし、何ものもこれをやぶる事は出來ないのである。

○

記し來つて想を出征將士の上に馳せて祈る。戰場にある愛する勇士諸君。形に於て離れしも、須臾も諸君を離れざる母、否肉に別れて靈に於てひしと一體になられし母、又既にこの世を去られし母、幾たびか諸君露營の夢に現はれしならん。傷つきしときは、看護婦以上の看護婦、繃帶となりて諸君をいたはり慰め癒されしならん。聲なき聲、否時には現實の聲より遙かの大聲もて、諸君を激勵せられつゝあるを信ず。

去るものは日々に遠からんも、母のみは反對である。別れ去りて愈々近きものは母である。母の愛である。母子の間には離別はない。山もない。河もない。海もないのである。萬人恐懼の死も我が心母を想ひ、母と通ずる時何の權威もないのである。

○

諸君、私共の母は私共のために、そのあらゆるものを捧げ盡して何一つ私共に求めませんでした。我等もこの母に倣ふて、報國の一念に燃ゆべきである。

母は何をも求めずして私共の眞の日本國民たらんことを願ひ、　陛下の良善の赤子たるの生涯を辿るを見て、無限の喜びに滿たされて居ります。

又世を去られし母は、天より私共の歩みを守り、其の正しき奮鬪をどんなにかお喜びになつて居ることでせう。

御國のために一切を捧げ盡して、やがて我等も靈の國に進まんとき、『オヽ來

たか骨の折れし且つ雄々しき生涯であつたのう』との只一言、慈母の言葉を聞くを得ば、我等子たる者の無上の光榮である、歡喜である。感謝である。

服從の美德

〔一〕

『文句言はずに絶對に服從する』。ある人々から、そんな馬鹿げた事は奴隷の道德だと言はるゝであらうが、この『絶對服從』こそ實は萬善の母なのであります。

文句なしに終りまで忍ぶ。これを戰場で見、これを炭礦のどん底で見、工場で見、事務室で見、學校で見、お臺所で見、我等のあらゆる生活に於て見、又心靈の內面深きところに見るべきである。

〔二〕

現代人に馬鹿らしく見ゆる『服從』。これが蔑視せらるゝところは、そこが何で

あらうが、實は地獄であります。

視よ、世界第一の智者學者に依つて組織せる國際の諸會議が何を生みしや、其の多くは國々をして益々反目分裂せしめる惡魔の使徒を生むではありませんか。所謂文化の進歩も、科學の大發達も、空中水中を征服し得たであらうが、人の心は愈々分離する。これすべての人みな服從を輕んじ、奴隷の道德なりと誤解して居るからであります。心せよ、服從を神と貴ぶところにのみ理想の國が現はれくるのであることを。

〔三〕

『服從』の德蔑視せられんか、まことの親子も對立者と化けて仕舞ひ、家庭は爭廷と變らざるを得ない。少々まづい言葉ではあるが、獸に服從の精神を與へしものが人間だとも言へる。故に人より『服從』を除かば獸に退却したものである。

至上の善とは、『絶對服從』であります。見よキリストは十字架の上に嬲り殺しにされましても、文句言はずに神に服從いたしました。怒髮冠を衝くとも云ふべき場合にも、彼は神を崇めて服從いたしました。これが最高の美であります。

〔四〕

妻たる者が夫を神樣の如く敬愛し服從する心からは、我ら人間の少々計りの知識や考などでは分らぬ絶大の力、實に神そのものゝ生命が湧き起るのである。如何に何が備つても夫を神樣の如く尊敬することが出來ない妻からは神の力は湧き起らぬのである。而して神の生命と力と光が起らぬ妻は、實は妻ではなく、女子でもなく、母でもなく、人間でもない事になるのであります。

アブラハムの妻サラは、夫を『我主』と呼び、卽ち神樣の樣に敬ふて服從しましたが、眞理の貴きわけは、幾千萬年昔に大切の事が、昭和の今日尙更大切とな

るところにある。深く思ひ見よ、夫を神の如く敬ひ得ざる妻を有つ主人の心からは人類永遠に渉る貴き貢献、乃ち科學も哲學も藝術も宗教も政治も天下の經綸も眞に價値あるものは實現せないのである。

〔五〕

無學の凡夫一大飛躍して神の姿に變るも、『服從の德』であります。私は深く信ず。夫を「主」として仕へんと志す妻はこれ乃ち天地の大神に順從した仕合はせの人であることを。（夫の事に就ては別の機會に於て申し上げさしていたゞきます）どんなに六ヶ敷い家庭であつても、姑なり嫁さんなりが、キリストの從はれし十字架を取つて立たば、地獄は忽ち極樂に變るのである。

どんなに六ヶ敷い事情纏綿するも、『服從』のもたらす德を僅かでも知らば、救ひの太陽は輝き初めるのであります。

母

私は今日迄青年男女間の種々の出來事に逢ふて一つの事を學ぶに至りました。それは新しい事ではなく、否極めて古き事であります。それは、『人の子の教養の土臺は神樣である』との事で御座います。聖書の中に十二歳少年イエスの宮詣りの記事があります。イエスが兩親に連れられて、エルサレムに參詣し、大群衆の團參の歸るとき、兩親は其の團體の中に一しよに混じつて歸りつゝあることと思ひ、返つて來ますと、團體内に居らぬを發見してびつくり仰天、直ちに神都に取つて返し尋ね尋ねて宮に參りしに豈圖らんや、少年イエスは天下有名の大博士等を向ふに廻はし、神樣の事を語り、聖書に就て論議して居りました。兩親は驚

き且つ喜び、こんなに心配かけてと申しますと、イエスはきつとなり、お母様私はあなたの膝下に居りませんときは、神様の御用事で一生懸命働いて居ります。家庭に私の姿見えざるときは、神様の家に居ります、其の外私の行き場所は無いではありませんかと申しました。

○

嗚呼純情の若妻が、貧乏の家庭で朝な夕なに捧げし至誠の祈りは、願ふところにまさりて幼兒イエスの衷に霧となり雨となり湖となりて湛へられ、今こゝで大博士等に逢ふて、ナイヤガラの瀑布となつて轟き來つたのであります。

家庭でかうした深い教育をせず、どこの學校が宜しいとか、つまらぬとか、目を皿にして尋ね廻り、どこに上等の先生が居るかなどと探ねて自分の氣持のよい學校に入れて、教育だと思つて居る『母』があるとせば、そは『母』ではない、

人の子の親でも姉でもないのである。化け物である。

學校は失禮に聞ゆるか知らぬが、教授所であります。教育所では無いのであります、電氣や理科や裁縫や習字や數學を教授するは、教育した事にはならぬのであります。

何々博士になつたとて、何も教育ではないのである。マリヤは一日も學校へ行かず、又目に一丁字も無かつたかも知れません。しかしながらこれは大教育家であつた。何となれば彼は子供の心の根柢に神を傳へた。ある意味にては、神を植ゑ付けたのである。これが最大の教育であります。何處に行くも、どうした場合でも神様の御名のためにのみ生きて動きて働く人、これ教育された人であります。マリヤはかうした子供教育の本家本元なのであります。

○

私は深く信ずる。今日青年學生が亂れたのは學校が惡い、先生がつまらぬ、社會が惡化した、下宿屋が墮落した、劇場が多過ぎる、ダンサーがどうした、バーが不埒千萬と云ふよりも、親達がイエスの父母マリヤ・ヨセフの如く幼心に神を教へず、眞人間として起つて働く土臺を据えて居らぬ。大切なる教育の基礎、人間となる根柢動力が、一つも與へられて居らぬのが大原因であることを。

宗教家だ、教育家だと言つて居る樣な人々でも大間違ひで、やれ東京は誘惑が多くて駄目だの、酒屋が夥しい、フラッパの女が多い、そんな事計りさわいで、社會の罪惡を呪つて居ますが、私は恐れる。かうした誤まれる思想家によりて青年の純心に世を呪詛嫌惡輕蔑する心が植ゑつけられ、人間をことごとく惡魔視するの大不幸を招來する者であることを。これこそ大危險思想なのであります。

世の中はいつでもちやうどよい樣に出來て居るのであります。神の輝くいとも

ありがたい天地であります。

心に神を宿して居る人には、物皆有難くないものは無いのであります。神樣を心に宿して居らぬ人には暗黑である。地獄である。天地萬有皆テンプテーションなのであります。神あれば萬事皆生きて働いて我を研き我を勵ましくるゝ大教師計りなのであります。道傍の小石も、酒場の女も、藝妓も、眞の教育を受けし人には皆大教師大說教者なのであります。

若し神樣が腹になかつたとしたら、ダンサーや酒屋どころか、現在の親子兄弟すらも厄介千萬の者と化けて來るのであります。惡魔の使となつて仕舞ふ。日本に親子兄弟が喧嘩して裁判して居る、血で血を洗つて居る事件は迚も夥しいのである。

人の親たり姉たる人々の深く〳〵注意せねばならぬ事であります。子供の心に

神を敬ふ虔ましき精神を植ゑ付けるは母でなくては出來ないのである。これが出來なかつたら母でも姉でも無いのであります。

○

次ぎは健康の事で御座います。今日は御存知の通りギリシヤのある時代にもありし如く、スポーツ隆盛時代、人々が皆運動に注意するは賀すべき事でありますが、病人の多くなつた事も驚く計りであります。

病院など廻つて見ますと、東京や大阪の人々は仕事と病氣をとり違えたのではないかと思ふ程であります。どこの病院でも滿員である。併しこゝで考へねばならぬ事は、人の健康は運動などは枝葉であります。其の根本は幼兒の營養問題なのであります。食物問題であります。生れて一二年間母が食物の脅威を幼心に與へざる事が、健康の大本であることを學ばねばならぬ。

○

今日の人々殊に教育を受けたと言つた人々の中では、しきりにヴイターミンがどうのかうのと考へて、消化するとかせぬとか、玄米飯がどうしたとかかうしたとか、しきりに騒いで居りますが、そんな事を八釜敷く言つて居る人は、大抵青い顔をして居る人々であります。私の教へられしところでは、

人の子の本能の中で食物にまさるものは無く、食と云ふ字は人と良とを合はせて作られて居る。即ち食べる事によりて人が良くなるのであります。背が高くなるとか、目方が殖へる、美男美女になる計りでなく、今日の言葉で申せばキャラクター人格が發展するのであります。

人の子は食慾を脅威せらるるとき、其の性格が僻み始めるのであります、これは母たる者の非常に注意が要るのである。私は長い年月かゝつて殘忍性、殺人犯

など出て來る原因を調べて梅毒を患つた人の子供、も一つはこの食物脅威が本家であることを發見したのであります。

○

先日もある大學の選手とか、主將とか云ふ青年が、フラッパさんに引つかゝつて一家大困難を起して私に考へてくれとの事でありました。

私が診察しますと、この青年はお家が田舍大盡で出入りの人が迚も多く、子供は衆人環視の中に育てられ、從つてお體裁だの人前が惡いの、御行儀がどうのと母がつまらぬ方にのみ心を專らにして、お菓子でも一つで置きなさいようと云つた風に、事々に制限を加へ、私から申せばお氣の毒ですが長年食物脅威の獄舍に居りましたので、性格は穴だらけ、運動では選手か何か知らぬが、人としては心細い役に立たぬものであります。

○

乳兒時代に於て、生理的に滿ち足れる程の營養を與へずして、其の本能を蹂躙せられますと、其の瞬間から幼なごころに泥棒根性が生まれて來るのを覺悟せねばなりません。たべたがる兒童をしかり飛ばす母がありとせば、其の子を地獄に追ひやる惡魔と化けた事を知らねばならぬ。

人間一切の生活の基礎、一生涯成功の土臺は幼兒二歳迄の榮養が主人公となつて支配して行くのである。深く考へねばなりません。

私は實に多くの子供、從つて孫も何十人と與へられ、貧乏なるが故にどの子供にも念を入れて面倒見る事が出來ず、時にはあまりに子供を構はぬ冷淡極まる者だと友達が叱つて呉れます。よい氣になつて居るわけではありませんが、私は子供に最大の教育を授けさしていたゞいた者と確く信じて居ります。

○

其の一つはどの子のためにも、孫のためにも、日夕祈らしていたゞいて居る事であります。これは行屆かざる私の一切も、又子供等の過失も、罪惡も、悉く神の榮光と變る大活動の精神となつて、必ず動き來る事を聖書の大事實に據りて信じて居る。

も一つは、赤貧洗ふが如き中に、幾多の子供を育てたのでありましたが、どの子供にも食物の脅威を與へなかつたのである。これは私が子供を思ひつゞけ、祈りつゞけて行く内に、非常に私の心の援けともなつて動いて居ります、又大なる希望となつて輝いて居ります。

二三歳の頃迄營養をうんととらせ、これに注意して、あとはあまり干渉せぬ、この營養充實は、少々亂暴の申し樣でせうが、何の學校教育も入らぬと言ふ程に、恰悧な確かな子供を造り上げるものであります。

私の今日この健康を有つて居る事は、貧しかりし私の母がこの事を知りて、私共兄弟に村中でびつくりする程の營養を、充たしてくれたおかげであることを知つて居ります。

○

更らに私共は子供を教へるよりも、先づ子供に習へと云ふ一つの事を深く學びたいので御座います。今日の人々は、あまりに子供を教へ過ぎる。子供は教へてはならぬ。育てなければならぬ。教育ではなくして育教とすべきである。育てる方に力を注ぐべきである。

たとへば食物でも前にならべ、好きな物を取つて食べる樣にしたい。料理がどうの、ビタミン講釋だの、醫者が極めた病的分量などにこだはるよりも、子供が

あゝおいしい〳〵とうんと食べるものが、大ビタミンなのであります。これが大榮養なのである。これが一生涯の大原動力と化するのである。

家を借入れるにしても、建築するにしても、子供がすき、マアこの屋敷はすき、この家は宜いなあ。と云ふなら必ず日當りのよい風通しの善い家に極まつて居ます。子供こそ大衛生家である。健康の最大顧問官なのであります。

○

今日の家庭の大間違は、子供束縛である。子供束縛は不良親である。不良少年取締よりも、もつと不良親を教導する方に力を盡さねばならぬ。さうでないと所謂不良少年を愈々增加する事になるのである。

私は少々言ひ過ぎかはしれませんが、天下第一等の相談相手、天下第一等の智者は子供であります。たとへば、日支事變でも其の結末は何人も分らぬ。しかし

坊ちやんお嬢さん達に問ふて御覽なさい、坊ちやんが六ヶ敷いなアと言ひ、お嬢さんがあたし六ケ敷いと思ふわと言つたら其の通りなのであります。僕はよく分らんがすぐ片付きさうだよと言つたらその通りなのである。大智者大參議よりも、實は坊ちやん達が大參謀なのであります。

學校で元氣よい、繩飛び、鬼ごつこ、汗かいて、ふうふう言つてかけつて居る坊ちやんに聽くべきである。天に口なし人を以て言はしむ。其の人とは幼兒の事であります

○

坊ちやん達より何も聽く事の出來ぬ人は神の聲も聞えぬ人なのであります。眞の人の聲も聞えぬ人なのであります。

坊ちやん達に教へて計り居る先生はつまらぬ先生である。ペスタロッチとはど

うした人なのか、私から見れば彼ほど坊ちやんから教へを受けた人は無いのである。フレーベルとは何人か、鼻たらして居る幼兒から大說教を聞き得た人なのである。

一草一木皆教師ならざるは無い。況んや人の子に於てをや、私共今日より大いに悔ひ且つ改めて幼兒より青少年よりうんと教を受くる人とならねばならぬ。

一　惱める方々に

○

人類の地上に置かれしこのかた、『人生の悲痛』は、實に人間の大部分を占領して居ると言へる程の大問題であります。隨つて古來これが解釋や解決法の考究せられたものも、少々ではありません。先づ極く古いところでは、私共が青年の頃學びました所謂ヒブルの解釋と言はれて居るものであります。これによれば人々の上に又社會に現はれ來る各般の艱難苦痛は、神樣の罰だと云ふのであります。人が苦しむのは神に背いたのである。神の法則を破壞したからである。人もし神に從順ならんには、一切無事息災である。災難は無いのだとの考へであります。

御承知の如く俗に泣き面に蜂と申します様に、人世の困難は大波小波折り重なり來る姿を持つて居るものでありまして、人間は困難が重なり來りますと、これ皆何等かの罪障の報ひではあるまいか、我が罪惡過失計りか、我が祖先が神の前に我等の知らざる大なる罪惡を犯せし其の當然の罰を、今我が身に受けつゝあるのではあるまいかと考へる樣になつて參ります。從つて此の解釋も確かに一部の眞理であり、長き歳月この解釋に從つて、人類は苦き歩みを續けたのも事實で御座います。

○

しかし乍ら此の考へ方は全き眞理とは言へないのである。何となれば、先年關東大震災や、大阪の大風雨の災害を神の罰と致しますと、慘死せられた方々は生き殘つた私共よりも、罪の深い惡人だと云ふ事になります。かゝる幼稚な解釋は

到底人を滿足さす事は出來ないのであります。

舊約聖書中最大の困難體驗者はヨブであります。ヨブと云ふ人はどうした人かと申しますと、彼は神を敬ひ、其の信仰淺からず、其の家庭も圓滿、其の事業も理想的のもので、まことに其の頃天下第一等と言はるる程の模範的のものでありました。それなのに、俄かに天火降りて（落雷なりしか）多くの使用人も、家畜も、皆燒け死んで仕舞ひました。麗はしかりし天使の如き多くの子女も、悉く白骨と化し、剩へヨブ自身は癩病となり、愛妻は精根盡き果てて去るに至つたのであります。所謂落ちぶれて袖に涙のかゝる時どころではなく、人生悲慘の極に墜ちたのであります。

此の時親友等が見舞に來りまして、其の意外に大なるヨブの慘狀を憐れみ、心力の限りを盡してヨブを慰めたのである。而して友等は口を揃えて、ヨブは人前

では殊勝らしく見せ掛けて信仰家と化けて居たが、實は僞善者であつて、神の前には毎日罪を犯してごまかして居たのであらう、でなければかうした大災難が襲ふわけはない、故に何よりもヨブは神の前に謙つて罪惡を懺悔して心を新たにしなくてはならぬと忠告したのである。これ友人等は皆災禍は天罰なりと考へて居たからであります。

○

私は明治二十七年の冬、始めてヨブを知りし以來、幾千年前の彼は、私の無二の心友となりまして、越ゆるに難き嶮道をヨブに伴はれて、ハレルヤを歌ひつゝ乘越さして貰つた事も五回や十回ではありませんでした。

ア、忽ちにして一切のものを失ひしヨブは辛かつたであらう、しかし財産は最大のものではありません。肉體も大切のものであるは申すまでもありません、が

しかしこれ又我等の最高最大のものではありません。それよりもヨブが辛かつたのは信仰の事であります。こゝに見舞に來てくれし親友たちの災禍天罰的人生觀は、ヨブには大財産消失よりも、癩病よりも、もつと深い痛みであつたと思ひます。

私も僅少ながら人間の負はねばならぬ荷物を負ひ、泣かねばならぬ谷間には只一人泣いて來たのでありますが、世に辛い事は、貧乏よりも、父母又子供に永別のつらさよりも、間違つた人生觀、誤れる神觀や信仰を持つて宜い氣になつて居る、所謂信仰の友を見る程辛らい痛いものは無いのであります。地獄の苦とはこれであります。

ヨブの偉大はこの地獄の苦みの中から正しき信仰を取つて起ち上つたところにある。つまらぬ腰脚を纏ふ彼是の事情に捕はれず、本末輕重を誤ることなくして

永遠の眞理を掴んで立つたところにある。

ヨブは男らしく友人の忠告を排斥して曰く、

我は神の前に君達の言つて居る樣な惡事はしないのであると言ひ放ち、

災禍は悉く神の罰や罪惡の報ではないと叫んだのである。而してこの人に由りて人世の一切は神の榮光の輝かんためだとの一大眞理が現はれ來つたのであります。

それまで暗かりし天下の人生觀はヨブに由つて新世界の光が輝き始めたと申してよい程のものが現はれたのである、人類の大なる感謝であります。

○

次は私には佛敎の事はよく分らないのですが、其の道の諸先輩から敎へていただくところによれば、その方の考へでは、此の世に災難だの病氣だのがあるのではない。これは畢竟するに『無明の迷』である。お釋迦樣あたりになると、そんな厄介の者は無い。正しき解脫者には惱みだの苦痛だの、そんなつまらぬ事があるわけはないと言ふ樣に思はれます。

其の他、これに似た樣なものを數へますれば、世に載せ盡す事の出來ぬ程であります。我國古代の先達者の中に、又西洋の人々の中にも、迚も澤山の解釋が試みられて居ります。而して皆夫々ありがたい敎訓の含まれあるは相違ありませんが、私はかうした人生の大なる事實、苦痛や災難の問題は、所謂哲學的の解釋では迚も眞の解決にはならず、只信仰的解釋のみ眞に解決し得ると存じます。故にこれを蔑視しますと人生は暗黑が續きまして、悶へて苦しんで倒れて仕舞ふの外はないのであり、正しき信仰程大切の者は無いのであります。

○

今更申し上げるまでもなく、私共は人生の實相を知らねばなりません。此の世は一面白樂天の詩の中にもありましたが、蘭と蓬と一しよに育つものが迚も澤山あります。キリストの教の中にもあります様に、大麥と稗子と一しよに育つ畑なのであります。蓬をうるさがり、これを惡魔の如く嫌惡して拔き去りますと、蘭も根元がぐらつき出しまして、忽ち枯死して仕舞ひます。私共は心淺くして此の世の一難を遁れんとして、却つて十難を仕入れて苦しみつゞけますが、もつと人と此の世をよく知らねばなりません。お釋迦様と提婆と共に育ち、キリストとこれを賣つたイスカリオテのユダと一しよに暮すところであります。

世の中には朝から晩迄社會を白眼んで其の惡を憤つたり、家庭にありても妻がかうしてくれたらよからうとか、嫁がつまらぬの、子供が氣に喰はぬのと怒りつづけて居る人があります。かうした暗い日月を重ねて遂に何人殺しなどと恐しき

地獄を創る人も少くありません、悲しき事の極みであります。もつと深く且つ正しく人生を知らねばなりません。

○

たとへば私共の道德性にいたしましても、古來幾多の聖賢方が、一方ならずお骨折り下さつたのでありますが、まだ〳〵完全の境域に到達するは程遠い沖合にあるのです。同文同種、昔から兄弟の交りを重ね來つたお隣りの支那でさへ私共の眞意はまだ理解しかねて大きな事變を起して血を流し合つて居るのでありまして、容易の事で完成に至らないのであります。

罪惡だの、神罰だの、人間惡だのと人々の困り切つて居るものは、人間の道德性が完成へと進む途中に出て來る現象であります。建築工場へ行つて見ますと、足場の上から、煉瓦かけが落ちて來るやら、モルタルが落ちて來るやら中々物騷

でありますが、これが建築の進捗して居る證據なのであります。

私共は深く知らねばならぬ、即ち様々の苦樂の形をとり、悲哀の姿となつて現はれ來る一切は、私共を完成するための一大教師である事、大した教育的價値のある者だと信じ、我が身の内外に起り來る一切をあまりに厭忌せず、又所謂天を怨み人を咎めて居らずしてせめては此の身だけでも眞實の一道を辿らばやと奮發して神に祈るなら、一切の苦難は貴き教師と變つて參りまして深大不朽の教訓を與ふる神の使と變るのであります。

○

聞くところによれば、賢哲ソクラテスには物騷の奥さんのあつた事や、彼ジョン・ウエスレーにも雷鳴續きの奥さんのあつた事や親鸞様あたりにも悲しき家庭の響きを承はるのでありますが、これらの人が玉成さるゝに至りましたのは無論神佛の大なる惠みであることは申すまでもありませんが、他面から見れば、この人々は愛ある人には迚も出來ない新聞雜誌に、家庭の暗黑をさらけ出して、諸先生に其の解決を乞ふ様な事をせずして、昔風の言ひ方をすれば、各々自己の因緣を深く考へまして人を動かさう、社會を立て直さうと計り考へずに、一切は我をして眞人たらしめんための神の大なる攝理なるを思ひ、自分に暴行を加へる妻から神の教を受取つた人々であります。私共の謹んで見習ふべき大なるものがある。

ソクラテスや、ウエスレーや、親鸞計りでない。實にかうした稗子は、人類永劫の昔から永遠の彼方にまでつゞくハンデキャップでありまして、今日も事柄は違ひましても一人の例外なく、何かの稗子を持つて居るものであります。私にも仰山の稗子があります。併し私はこの教師がなくなつたら、迚も只の一日も眞實の一道は踏めないなと考へますと、凡ての不如意我を苦しめる人々も、皆大慈大

悲の觀世音であり、愚かな我を導きて眞實の世界に到らせんとて遣はされし天津御使なるを思ふて、うれしさ有難さの涙にむせぶのであります。我等は他人が我を苦しめたと怒りますが、實は私よりもその人の苦は更らに〳〵深いのであります。

○

私は常に思ふ。人間の偉大な譯は、苦しみを感ずるところにあると存じます。死骸は痛みを感じないが、血の通つて居る人は痛みを感ずるのである。これが人間進歩の生命であり、文化創造の根柢なのであります。昔私が書いた書物の中に人間最大の不幸とは何か、苦難困難の山と積む事ではなくして、一つも難儀苦勞の無い事であると申しましたが、今も私はさう思つて居ります。

我々はひどく痛みを感じます。只今も遊就館のどこかに、又軍醫學校あたりにもあるでせう。昔西南役にはまだ醫療が幼稚で、少し許りの傷痍も皆手を切つたり足を切斷したりしたので、患者の苦痛も非常であつた。併し我邦が今日世界第一等の外科手術の王と言はれますのは、實はこの西南役の痛感がそこまで我國の外科療法を推進したと云つても間違ひないと存じます。

世界の大文學はどうして生れるのか。少々言ひ過ぎかは存じませんが、悲哀の變態なのであります。悲哀が生んだのではありませんか。

病氣でも、苦難でも、死ぬ事でも、其のまゝで何の意味なき無意義に終るものではありません。皆只今申す西南役の手切り足切りから世界第一の醫療の進歩的生命が起る樣に、私の思考と信仰と努力に由りて、そこから大なる光明が輝くのであります。

○

私が茲五十年間實驗の中から敎へていたゞきし事は、人間の力は苦難に負けないとのそれであります。人の世には實に限りなき苦難があります。けれども、それに耐へ得る力、否すべてのものを敎師と變へる靈能が與へられて居るのであります。

人々はこの天與の靈能を賦與せられある重大事を見落して居ります、心すべき事であります。

イエスは苦勞人でありました。凡ての人々はみな困難遁れ、災難除けで一生涯キヨロ〳〵して居ますのに、イエスは之を逃避せず又人にもなすりつけないで、負ふべきものを實に從順謙遜、以て終りまで負ひ通した眞人であります。彼は遂に十字架上悲慘の死刑に處せられましたが、『我れ世に勝てり』と言はれました。之を瞻て私共は人の衷にどうした偉力が與へられあるかを知つたのである。私共の眞の心の姿が彼に現はれたのである。

私共は現下の事變に際して、畏くも　大元帥陛下の大御心を奉戴して一切を捧げ、支那の嶮難の谷間に戰ひ、曠野に曝露して驚くべき忠勇の誠を私共に示して下さる多くの將士方に由りて、今更の如く日本人の偉大を知りて感謝に堪えないのであるが、私共はイエスに於て人の心靈の偉大とその實に不可測能力の賦與されあるを知るのであります。

○

ある意味では、私共は泣かうが笑はうが、好まうが好むまいが、此の世に生み落されたものである。人生をどう解釋しようがしまいが、一大戰場に投げ出されたものであります。弱い事を言つて家庭を呪つたり、社會をくさしたりして居らないで、私共に賦與されてある力を信じ、感謝して最善の力を致し、もつと住心

地のよき世となる様に祈り且つ盡すべきであります。

私は宗教とは、人間の罪惡がどうしたの、かうしたの、そんなものゝ解釋ではなくして、日毎の生活を所謂『日日好日』とする祕訣を授けるものと存じます。

人と人の世を明朗にせんとせば、大麥だの稗子だのと騷ぐよりも何よりも神を信じて起ち上る事が肝要であります。更らに大切なるは自己を深く信ずる事であります。世の中の頭の惡いお方々は、自己を信ぜよとは亂暴である、如何に信ぜよと言つても罪惡の醜塊、地獄の眞中落ちの自己をどうにもかうにも仕樣が無いではないかと私に反抗しますが、それが頭も心も間違ひの證據であります。信ずるとはさうした事を申すのではありません。地獄行であらうと猿の御親類の樣に見えようと、さうした事を彼是文句言つて居るのではありません。たとへ私の現實が人より獸に近くとも、そんな事に愚圖々々せずして、

『我は神樣の大事な子供である』と確信する事であります。

イエスは我は葡萄の樹で汝等は其の枝である、我が父なる神は農夫であると敎へました。これを信ずる事である。地獄行と誤信せずしてこれを正しく信ずべきである。これ大なる生命の一大合奏が始まる根柢である。

○

昔パウロは『神もし我等の味方ならば誰か敵せんや』と申しました。一大眞理であります。今日我軍の偉大なる勝利は、武器の精良もさる事ながら、忠勇將士方の心々に大元帥陛下の偖に在はしたまふとの信念があるからであります。神樣が我が味方であると信じて居るからであります。

忠勇將士は陛下の大命を奉じて戰場に來たものである。自分勝手に進退するのでない。これが我が軍隊の强い力であります。彼等は功を誇らず、一に陛下

の大御心のまに〳〵進み戰ひ、死の來るときは誠に素純赤子の如く　大元帥陛下の萬歳を叫んで喜んで死に就くのである。眞に大往生とはこれである。

之に反し支那の軍人には萬歳の唱ひどころが無いのである。今日彼等の死傷は其の數何十萬なるや推知し難きも、この大數の死傷者何人が蔣介石萬歳を叫んだでせうか。又宋美齡萬歳を唱へたでせうか。憐れむべし、彼等は「排日徹底」か「侮日永久」を唱へて死んで行くでせう。世に地獄の死とはこれではありませんか。

私共が此の世にあるは無意味な、衣て食つてまごついて火葬場へ行かんためではない。神に由りて此の世に神の御心を爲さんために送られたものであります。如何な六ヶ敷き事情が起りまじても神の聖意なくして我に臨み來らざるを深く信じ、悉く我のためになる事計り、悉く神の榮光となるのだと確信して進むべきであります。ホイットマンでありましたか、もはや私は幸福だの幸運だのを尋ねない、私自身が大幸福そのものであると歌つて居たと記憶しますが。

私は神の愛子である。神の御心を成さんために遣はされた者である、我が生涯の安かれと祈る弱い者ではなく、出逢ふ凡ての事柄によりて深く神意を學び、以てより強い人、より明朗な人、より眞實な人となられます樣にと祈りつゝ進みたい、これが私の願ひであります。

愛

○

たとひ天地の大眞理を研究しつくす事が出來たとしましても、山を移す程の大信仰がありましても、『愛』が缺けてゐますならば、自動車の空らまはりの樣な騷々しい社會に生きて居るだけで、(實は生きてゐるのではない)眞に生きた甲斐は無いのであります。

世には私の樣に、外國の言葉は勿論、自國の言葉さへよく知らず、天の使ひの言葉どころか、大した信念もない者でも生きて行く、否生きて行かねばならぬのである。なぜ生きて行かねばならぬのか、それは私は子供を與へられて居ります。

どつさり孫を持つて居ります。故に私は何が無くとも石に嚙り付いても生きて行かねばならぬ。

○

私のすぐ姉の友達の一人が、先年多くの子供を抱へて大病にかゝり、危篤に陷りしとき、私の姉を枕元へよびよせて、おまちさん(姉の名)私はどうしても死なれぬ、何度生き返つて來ても、この大勢の子供を育てねばならぬ、と血の樣な涙を流したと姉が私に告げましたが、宗教者は往生際が惡いとか、神が分らぬ無信者だとか嘲けりませうが、私は至極尤も千萬のことであると感じました。

もしこの人を見て、なんだつまらぬ信念の無い愚か者だ、往生際の惡い者だと嘲ける人がありますなれば、それは人情の至極にも人間にも通ぜざる淺い人であります。どんな母でも死んで行くとき、若し愛する子供が殘つてゐるとき、其の

儘安んじて死んで行けようか、わが子のためにはさう安々と死ねないのである。それを無信仰呼ばはりするならば、私はその人こそ無信仰であると思ひます。

○

私に石に噛りついても生きねばならぬといふ強い人生觀を與へたものは何であるか。哲學か、然らず。宗教か、然らず。さうしたものではなくして私の子供であります。孫であります。

子供のために生きようと思ふとき、私は生きると云ふ大きな特權と、大きな歡喜を感ずる。同時に我がうちに創造の生命の新たに動くを感得する。無學でも無一文でも戰つて行ける、必ず勝つて行ける、との雄々しい心が生れる。これを信仰と云ふのであります。

○

この頃、殊に少々學校教育を受けたと云つた樣な婦人方は、毎日お臺所で働く樣な事を實につまらぬことに思つて居るものが少くない、大きな間違ひである。世を蓋ふ大事業を成し遂げても、巨萬の富を積んでも、アア我が生涯は空網曳きに外ならぬと、無意味を喞ち悲しんでゐる人は少くないのである。

人の目より如何につまらなく見へましても我が愛する者のためにはなくてはならぬ者であると云ふ自覺、これ程大なるものはなく、これ程芽出度いものはないのである。

○

私共夫婦の大なる喜びは、一見何の見るかげもない夫婦ではあるが、子供や孫にとつては天下第一等の人物であるらしい。宇宙第一の父であり母であるらしい。この事を思ふとき、實に歡喜の涙がこぼれて參ります。

又私共に眞の神の御心を教へくれしものも大教師ではなくて子供であります。神様の大御心とは、『報ひられん事を思はずにあくまで盡したまふ』ことであると思ひます。

私にこのことを深く教へこんでくれし者は私の子供でありました。私は子供が役に立たねば、尙更生きて盡してやらねばなりません。報ひられんことを思はずにいつまでもいつまでも。

○

先頃、あるお方が私をお訪ねになりまして、『子供のために實に少からぬ學費を投じ、田地も、父の遺産も殘り少なになりましたが、子供の樣子を見ますと、迚も私の老後を養つて呉れさうに思はれません。こんな事なら、學問させる事などやめて地所か株券でも買得し置きし方よろしからんに』との事でありました。

昔は年取つて子供の世話にならねばならぬと言つて、投資的氣分で盡力したものも御座いましたでせうが、今日學校出の子供に老後を養へと云ふは無理の注文となつたと思ひます。最早親が子供から愛の報償や代金を取立てゝ喜ぶと云つた樣な時代は過ぎ去つたのであります。

○

我々は現時代に輝く神樣をよく視なければならぬ。現代の神觀を確立しなくてはならぬ、妙な言ひ分か知れませんが、天地の神は永遠の彼方より永劫までお變りはあるまいが、時代は日々夜々に進み、又變化するのである。

故に今日は今日の神觀が要る。今日の神は、『子供を愛する報償を求めざる神』であることをよく考へなくてはならぬ。打算的の思案は放棄せねばならぬ。

この新しき神を考へ損ふときは、嫁が私共と意志が通ぜずにつらくあたると云

つた様なときに、忽ち不平が起り、不滿が起り、こんな親不孝な奴は無いと云つた氣になるのであります。私共は神に從つて、死ぬまで子供のために盡すのである。これを神の恩惠と云ふのであります。神様は文句言はないで、自己を捨てゝ盡す事を敎へんために、否神御自身と合致せんために、私に妻や子供を與へて下さつたのである。友人も、そのためにお與へ下さつたのである。又時には私に妙ならぬ考へを持つ人まで備へて下さつたのである。一切を喜び感謝して其の報ひを望むことなく、あらゆる善意を捧ぐべきである。

○

又私がいつも喜んでゐます事は、只今日本國中、至らぬ私を愛して下さるお方々が迚も澤山でありますが、若し明日私が警察にでも連れて行かれ、惡人であることが社會に發表されたとすれば如何でせう。私を熱愛して下さつたお方程、私

に躓かれて大なる敵と化けて仕舞ふでせう。けれどもかうしたとき鐵窓の下にも、絞首臺の上にも、否死出の山にも私と一緒に落ちて行つて呉れるものがあります。夫れは私の妻である。子供である。孫であります。私はいつも深更まで書き物いたし、又曉天床を蹴つて起きて詩書に親しむとき、子供や孫が寢言など言つてゐますが、この寢言連は私と死出の山路も離れぬかと思ふと、恰も天の使の降り來れる心地して、感謝の涙にむせぶのであります。時にはヨ、と聲を放つて、ありがた泣きに泣き伏すことも御座います。

○

又、今日まで、私は多くの學者達から未來があるかどうかと言つた樣な質問を度々受けるのでありますが、愛は不朽である。愛するものを有たない人は格別、愛あるものは未來を信じない人は一人も無いと思ひます。

私は今日まで幾人もの子供を喪つたのでありますが、小さきものゝ魂は、いつも私を離れたことはありません、と書いてゐるこの瞬間も現はれ來つて私の思となり想となつて働いて居ります。ありがたい事である。

殊に私は幼少の時より、種々の人々に誤解されて捨てられました。私を見限つた方々も少くありません。然るに私に大なる信頼と希望をかけてどんな時でも私を捨てない者がありました。それは私の母であります。

私の母が私を信じた其の深さは印度洋よりも深い。其の高さは富士山よりも高くして、測り知れない。

○

世に人の子と生れし者にして、私程母を泣かしたものはありませんでした。私は母を幾度か死地に突き落した者であります。然るに、ア、然るに、母は只一ぺんでも私を見捨てませんでした。只一度も私を嘲罵しませんでした。どうした場合にも一縷の望みをかけて、私が眞人間になるを期待し且つ深く信じてくれました。母の眼には天津御使の如く見へたものでありませう。不孝の子供である私の前途遙かに神の光が輝くを母は見て喜んでゐたのでせう。有難い事であります。

尙私の母は自分が一文字も知らず、一厘の貯金もなくして私を學校に送りかねたが、自分の心一つで私を教育しようと考へ、此の世限りのものではなく、未來永劫榮えたまふ神佛に祈念し、幾億萬年かゝつても、私を眞の人にしようと燃え立つたのであります。母が驚くべき記憶力を以て、經文を習ひ、殊に西國三十三番靈所の御詠歌の眞義に通じて、私を教へくれし不思議の力は、只我を導きだい一念から起つたものであります。有難い忝けない事であります。

○

母と肉體に於ては永別早や四十七年を數ふるに至つたのですが、不思議な事には、此の世に在りしときよりも私は母に一層近くなりつゝあります。母を思慕するの一念愈々深く、なつかしき至情油の如く私の胸に湧逆しつゝあります。

未來の有無を論ずるは前にも申し述べし如く愛するものに有たれず、又これを有たない人なのであります。不幸此の上もない人であります。

私はどうあつても未來に此のなつかしき母に逢はねばならぬ。又必ず相逢ふ事を確信して居ります。私がお母さんと飛びつくとき、アヽ、俊助(私の幼名)來たか、骨が折れた世界であつたらうとの只一言が聞きたいのである。宗教や哲學が何と批評しようと、信仰がどうであらうと、私は母に逢ひたい、只この一念に戀ひ焦れてゐる者であります。

これが私の大願である。この一つの事に由りて私は今希望に生き、又あらゆるものと奮戰してゐるのであります。

私の行手に何が横たはつて居りましても、母を思慕する一念はあらゆるものを悉く擊破し能ふと勇み立つてゐるものであります。

ゆきませし母のみあとぞたふとくも
わがふむみちのしるべなりけれ

奥江清之助翁の臨終

（米國奥江家に嫁したる二女の通信）

取り敢ず電報にて御知らせ申し上げました通り、父上様には遂に輝やかしい御榮光の中に安らかに御歸天遊ばされました。

何と申しましても、御高齢の事とてこの日のある事を考へないでは御座いませんでしたが、今かうしてこんなお別れをしてしまひましたら、御生前に泣いてくれては困る〳〵と云はれて居りましたのに、何を見ましても只々お父様のあのお優しいお姿に見え、お元氣のいゝ讃美歌の聲に聞えてたまらない悲しみにおほはれてまだ何も考へられません。御病中の御様子を改めて詳しく御知らせ致すつもりで居りますが、大略を申上げて御安心を願ひ度く存じます。

二月二日午後三時に私が農園から宅に歸つて參りましたら、御自室のストーヴの前で椅子に腰かけて居られて苦しさうにして居られましたので「お父様どうなさいましたか、お苦しいのですか」と申しましたら「ア、少し左の肩の下あたりが急に苦しくてね、少しもんでおくれ」と申されましたので靜かにおさすりして差し上げましたら「あゝいゝ氣持だ、もうよくなつた様だよ」とおつしやいますが、左の脊中の方がお惡いらしいので、先年の心臟の御病氣をフト思ひ出しまして、ベットにお横になつて頂き度くおすゝめ致しましたが「何んでもないよ、もうぢきにいゝからベットには入らないでもいゝ」とて、どうしてもベットに入つて下さいませんでしたので、主人と相談致しまして無理にベットに入れました。そしてフレスノ市の安藝兄上を電話で御呼びして、同時に近くのいつも家の者が御世話になつてる米人のドクターに電話して來て頂きました。御診察の結果少し肺炎の徴

候があるが決して惡くはない、然し何と云つても御年が年だから今はかうでも五分後にはどんな變化があるか豫測を許さない。まあ出來るだけの手當をして萬全を期する樣にしなければならないとて、種々手當を敎へて又明朝來るからと歸つて行かれました。それから直ちに種々手當を致しましたら、夜九時頃フレスノから安藝兄上の來られました頃は、大そう氣分がいゝとて、兄上に向つて『あゝ來てくれたか、さつきは苦しくてもう死ぬかと思つたが、お千代が濕布をしてくれたので、もうすつかり治つたよ、折角來てくれたがもう歸つてもいゝよ』と仰せられて、久し振りに兄上にお逢ひになつて嬉しかつたのか、いろ〳〵と御話をしようとなさいましたが、兄上に注意されてお話を止めて靜かにして居られましたが、夜が更けると共に呼吸がお苦しくなられ、兄上は滯在して看護して下さる事になりました。それからは同じ樣な狀態で只々醒めるともなく眠るともなくうと〳〵として食慾もなく、なんとなく私にも一抹の不安を感じさせましたが、無理にも惡い方には考へ度くなく、きつとよくなつて下さると思ひつゞけて居りました。そして又春子(長女)姉さんも來られて私共四人して寸時もお傍を離れずに看護いたしましたにもかゝはらず、六日の夕方私があたらしい牛乳を硝子の管によつてお口に入れて差し上げて居りましたら、急に吸ひ込まれる力がなくなり、同時に兄上からもう危篤狀態である事を告げられ、子供を呼ぶ樣にと申され、前日の夕父上の小康を得られましたのに安心して、フレスノにお歸りになつた姉さんを迎へに使を出すやらいたしました。六日午後五時十五分にはルース(孫長女十九歳)を初め皆に一々固い握手して「さやうなら、さやうなら」とゆつくりと力强く皆に別れの言葉をおつしやいまして、ほんとうに悲しう御座いました。時を移さずお醫者さんが參りまして、今晩九時迄は大丈夫だが、あとの時間はいつまでか保證は出

來ないが、尙最善を盡さうとの事でした。九時過ぎ姉上の來られました頃には、モルヒネ注射によつて全く眠つて居られ、コロニー中の私共と特別の關係の方方多勢お別れに來て下さいました。夜半十二時迄もゐて下さいましたが、其の夜は保たれました。牧師の篤いお祈りに、一同主に賴んで不安の中にもお歸りになりました。七日の午前四時意識がはつきりと致しましたので、皆が交る〴〵握手を致しました。子供達にも一人々々名前をお呼びになつて、しつかりとお別れの挨拶をいたし、父上生前の御依賴の通りに皆で涙ながらに讃美歌をうたひました。

父上は苦しい呼吸の中から「廣大なる御惠みを感謝し奉る、吾等一同の者を守り給へ」とお元氣であつた時と同じ樣にして、力づよくお祈りして下さいました、一同尙も讃美歌をうたひました。だん〳〵と天國が近づいて來らるゝ父上を中心にして、ほんとうに〳〵泣いてくれるなとの御命令を承知してゐながらも、泣かずに居られませんでした。

父上は突然手を高く上げられて、「大いなる〳〵〳〵〳〵惠みの光吾等同胞の上にあらん事を」と祝禱をして下さいました。あの衰弱して居られる父上のどこからあんな力あるお聲が出るかと思ふ程でした。却つて私共は父上によつて慰められ力づけられつゝ看病してゐた樣なもので御座いました。

『オヽ主よ、萬軍のエホバよ、我等一同の者を守り給へ』と祈り、『惠み滿つ』などはつきり仰せられつゝ、うつら〳〵と眠つて居られました。

注射によつて大抵の時は眠つて居られましたが、醒めてさへ居られゝば御見舞に來て下さる誰方とでも喜んで握手され、苦しい中にも其の御家族の御近狀など御伺ひ申して『あゝ結構です〳〵』と云はれ、或方には祈つて上げられてなるべく多くの方に御逢ひして頂きました。

御旅立ちの前日の夕方の(七日)午後六時又もはつきりと醒められましたので、皆で幾度目かの御別れの握手を致しました。意識のある中にと思つて又讃美歌をうたひませうね、と申しましたら、父様は昨年の秋頃から度々私共におぢいちやんが天國に行く時には、決して泣いてはいけないよ、大きい聲で讃美歌をうたつて、萬歳を唱へて送つておくれよ、と申して居られまして、私がはつきりと御約束して居りましたので、度々歌ひました。

「あゝ」とうなづかれ、「私にも讃美歌を一冊おくれ」とおつしやいましたので、どれを歌ひませうかと申しましたら、御返事がありませんので、お父様の御あけになつたのを歌ひませうと申して待つてましたら、ふとおあけになつた所が、『我こそ十字架のつわものなれいかでか恥ずべきイエスの御名を』の所でしたので、讃美歌を持つてゐられる手に私が又手を持ち添へてうたひましたら、初めの一節をはつきりと歌はれ、あとはお口だけがその様に動いてゐました。それから又意識のある中にとて、皆が順次御別れの御握手をして、お口を水でしめしてあげましたら、なんだか何かを探す様にして居られますので、ポールがポーチャン(孫三男六歳)ですよ、とお手を握りましたら、それこそお嬉しさうにニッコリとお笑ひになりました。そしてポーチン〳〵〳〵と幾度もしつかりしたお聲でお呼びになり、サミエル(孫長男十四歳)を呼んでおくれと云はれ、走り寄つたサミエルに又も固い〳〵握手をしてサミエルよサミエルよとお呼びになり、最後に主人の手を握つて『萬歳!』と高らかに云はれ、私共もそれに續いて涙を流しつゝも、『お父様萬歳』を唱へました。思へばこの御病中にお笑ひになりましたのは、實に最後にポールの手を取られた時が最初であり、最後で御座いました。又自分から名指してお呼びになりましたのは、サミエル只一人で御座いました。それからは全く昏睡狀態

に陷られ、泣いてくれるなと賴まれてゐましたのに、どうしても一時のお別れとは申しても悲しみに負けて泣く私共を傍に只々昏々と眠りつゞけて居られました。そして七日の夜半十二時頃からは、お顏が全く生れたての赤ん坊の樣になり、ニコ〳〵笑つたりホヽ笑んだりして靜かに〳〵床に居られ、翌二月八日午前八時四十七分遂に〳〵靈は天の神樣の御許に勇ましく歸つて行かれました。この朝七時に來てくれたお醫者樣も、お父樣のお顏を一目見て、「オヽ、なんて輝やかしいお顏でせう」と暫らくは診察も忘れて見入つてゐました。ほんとうに〳〵この御病中も御臨終も日本のお父樣にお目にかけ度い樣で御座いました。一度も苦しいとか痛いとかも仰せられず、最後の昏睡狀態になられてまでも、尙聖書の御言葉を云ひつゞけられ、お祈りをしつゞけられました。

今この尊い〳〵お父樣のありし日の事特に御臨終の美しさによつて私共のみならず、村人達も尊い御教訓を頂きまして、甦つた樣になりました。お父樣の御葬式をすましまして、第一の聖日の禮拜の盛んでありし事當教會初まつての力ある神々しい禮拜で、一同お父樣の靈が私共の上に今日も働き給ふを感謝致した次第で御座います。

思へばお父樣には眞に聖徒の生活をして居られた事が今になつて一層はつきりと皆にわかつて參りました。御病中も及ばずながらも、私共の家族と、安藝の御家族との者が一人も缺けずに、皆お傍に居て御看護致しました事がせめてもの私共としての喜びであり、父上の御滿足でありし事と存じます。私は御發病以來一週間、それこそ帶もとかず、晝も夜もつきゝつてゐました。附添ひの特別看護婦がおしまひには私の事まで案じてくれましたが、私は日本のお父樣の分と二人分をしなければならないと、ほんとうに〳〵一生懸命で御座いましたので、不思議に

つゞきまして感謝で御座いますし、看護婦も大變良い人を惠まれました。通譯も皆お父様との間の事は私が致しました。この世での最後のお食事であつた牛乳も私の手から飲んで下さいましたし、終りの讃美歌も私の手を握つておうたひになりました。この事は日本の父上様もきつと〳〵御滿足に思つて下さいます事と存じます。

二月十一日午後の御葬儀にはとても澤山の方がゐらして下さいました。御說教は救世軍の小林政助先生に父上が三年前から御賴みになつてお置きになりました由で、丁度先生は二千五百哩北方のテキサス州へ御旅行中であられましたのに、電報にて御知らせ致しましたら早速飛行機で歸つて來て下さいまして、漸く間に合ひましたが、その御說教が又大きな榮光をあらはしまして、大變感謝致して居ります。村中の人が其の後來て下さる度に、お父様の偉大さとその深い篤い御信仰に只々尊い御導きを頂きましたと云つて再び信者としての自分を顧みて居りますと喜んで下さいます。何よりも〳〵うれしく思ひます。私共も淋しさの中にも、あのお優しいお父様の靈が私共の呼吸する空氣の中にも滿ち〳〵てゐる樣な心地して何とも云へない和やかさを感じ、主人と共にこれからの私共の責任を語り合つて居ります。どうぞこん後ともお祈り下さいませ。

お父様からの弔電ありがたう御座いました。亡くなられた翌日參りまして葬儀には讀んで頂きました。今日の午後京都の原田助先生と東京の山室軍平先生から御電報を頂きました。皆様の御親切を涙の中より感謝致します。お墓はお母様のはこの農園の中にありますが、法律上今はそれが許されませんので、かねてからの御希望通りに、宅から二哩程離れたウヰントン共同墓地に埋葬致しました。日本のお父様と御一緒に御墓參りの許されますのは何時で御座いませう。お母様の

もいつかはお父様のお傍にお移ししなければなりません。父上には此の日のある事を隨分前から御覺悟なさいまして、後で物を整理致しますと、何もかも皆最近までかゝつて整理してゐらつしやいます。

大きく書いて置いて下さいました聖句を部屋の方々にはつて皆でおぢいちやんを偲んで居ります。

おぢい様はかうして天國に出發して行かれました。私も新らしく神の國にと出發して、やがて別れなき聖國にて、又御一緒に過ごさせて頂ける樣にしなければなりません。尙々御導きを御祈り申します。前後したりして御わかりにならないかと案じます、どうぞ御判讀下さいませ。皆々樣の御健康の程をお祈り申します。

二月十五日武子姉樣の昇天の日に聖國を偲びつゝ

千代子

御父樣
御母樣
御前に

婦人の衷なる神祕

皆様。御婦人方は人間の神祕であります。更らに言へば眞に人間の寶であります。何故でせうか。

婦人は赤坊の衷から英雄を見出し、大宗教家を感知し、平凡なる日常生活の中から、偉大なる又高貴なる悟りの道を男子よりも早く見出す能力を持つて居るのであります。

宗教的に申しますれば、天地交通の祕力が賦けられて居るからであります。

動物は平面的にぐる〳〵廻るのでせうが、人間は縱に殊に御婦人は向上の偉力發達の原動力が豐かに惠まれて居ります。

人間とはどうしたものか。これは宗教教育上極めて大切な問題であります。從つて此の答案は山なす程で御座いませうが、私の考へでは、人間の特權とは不斷の創造と進化を以て人類の歷史と文化に貢獻するのが眞の人間であります。而して御婦人のうちにこの驚くべき創造の偉力が惠まれて居ります。

今や國家は誠に重大の難局にぶつかり、智者も學者も、この世の論者も、どうする事も出來ない大問題が次から次へと折り重なつて來るのでありますが、私の信ずるところでは、婦人が『眞に婦人の偉大』さを自覺し、其の御銘々に賦與されつゝある『高貴なる神祕力』それを靜かに深く祈つて考へて悟つて下さらば其の如何なる事も恐るゝに足らぬのであります。何となれば火矢と降り來る大難をも蹴散らして進み、又これに打勝つて餘る力が婦人に宿つて居るのであります。

○

今日到るところに御婦人方が銃後の様々な後援、殊に出征軍人の御家族扶助や、戰死者の御家族御慰問等種々努力せられつゝあるは、誠に感謝に堪えないのであります。今後も私共はあらん限りを献げつくすべきでありますが、それにもまして『婦人の偉大』さを自覺することが極めて必要であります。その何者にも勝ち得て餘りある靈能の所有主たることを悟るは大切の事であります。

皆様は蓮如上人の母を御承知で御座いませう。此の母子は不幸にして上人只六歳なるに永別せねばならなくなつた。悲しき別れ路に母が殘せし激勵の言葉は、上人の世を蓋ふ程の大きな生命となり、上人が、母を思ふて涙ながらに歌ふ子守唄の中から八十五年草鞋を脱がざる日本第一の大傳道者が現はれ出たのであります。御承知の如く應仁の大亂以來この人のために力づけられ、斷腸の悲哀の中、絶望暗夜のどん底から上人に依りて新しき光を仰ぎて蘇生したる人々幾萬ありしか測り知られぬ、驚くべき力が起つたので御座います。

今更申し上げるまでもなく、『眞の母』の涙を浴びせらるゝ時、復活し、更生し、又進展活躍せぬものは、宇宙間一つも存在しないのであります。母のうちにはキリストが宿つて居る。神が宿つて居るのであります。私共人間は罪業深いの、地獄行だのとつまらぬ暗き方面を考へ過ごさずに、このいと大なる自覺と信仰を有つて働くことは極めて肝要であります。

○

先頃日立製作所高尾副社長の御依頼によりまして、鎌居水戸工場長と共に同社大阪の諸工場を一巡りしたのでありましたが、今更の如く我國女子の大なる勤勞と天下第一等なる其の手先の優秀な技倆を喜んだ事で御座いました。殊に木津川では男子そつちのけの勇敢振りであるばかりか、世界何れの國々にも行き渉る

お仕事が、この善良な勤勞婦人に由つて事實無言の說敎ともなり、國際親善の使者ともなつて有力の働きとなりつゝあるは、甚だ心强く感じたのでありました。

私は『皆樣こそ事實上の全權大使である、永久の親善を結ぶ天の使ひであるから一層日々の業務に注意周到なるべく、皆樣の製品を通じて、畏くも　天照大神の高きお姿が萬國萬民に仰がるゝに至らんことをと熱心に御相談申上げたのでありました。』中には涙を以て自重自任をお心に誓つてをられた方々も御座いました。

○

元來我國女性の美德は、功を誇らず、化粧でも藏し化粧であつた。かうした美德は女性をいたく引込めて行く雰圍氣も造つたでありませうが、多くの特志家の色々調べて下さつた報告に依りますれば、古來幾多の發明が我女性の間にも考案れた事が明かになつて參りました。たとへば今を去ること十六百餘年前、

孝仁天皇の寶龜二年大和國當麻寺に於て、中將姫が觀世音と彌陀佛の靈感に依つて、五色の蓮糸を作り曼荼羅布を織つたことは、我が女性が發明界に足跡を印した最初だと言はれて居ります。科學や工藝の發達せる今日より見れば、無論幼稚であるが、當時の事情よりせばこの曼荼羅布は、キユリー夫人の元素大發見にも劣らぬ程の努力であつたとも言へませう。

又寛文年間明石の浪人堀將俊、其の妻滿、長女千代、次女今朝の四人は私の生れた越後國小千谷の在に於て、其の昔から此の地方にあつた織物に改良を加へて、越後縮を案出したのであります。

此の頃次女今朝は美聲であり、其の機織唄は道行くものゝ歩みを留めたもので大評判でありました。この勞働歌は後ちに其の踊りと共に「越後おけさ」となつて、今日に殘つたのであります。

これ丈けでも、女性の中には男子に劣らぬ發明の能力も豐かに賦けられあるを如實に立證するものであります。

○

皆様は勇士を戰場に送り出されて、御家庭の事にも、色々御心配のお方も少くないと伺ひますが、私の子供等も、親戚の者どもも、主人を戰地に送り、多くの幼兒を育てゝ居る者が澤山あります。何時戰死のおしらせを頂戴するかも知れませんが、神様は一羽の小雀さへも無目的に動かしたまはぬのである。況んや國家に献げしもの、畏くも　大元帥陛下の御名のために盡せしものゝ遺族が途方に暮るゝわけはないのであります。心細く思はないで信仰を以て日々夜々に奮闘いたしませう。

天は忠誠なるものを見捨てたまはず、憂苦を後にして與へられた力で働き出すならば、希望の光はそこから輝き來るのであります。憂ひ悲しみに沈みて不幸を嘆く、と云つた風の人は天の惠みを放棄したものであります。私共が働きを貴ぶならば天は必ずその小さき働きから、各々に大道を開きたまふのであります。必ず涙を拭ひたまふのであります。

○

更らに考へたきことは、現代は力の貴ばれる時代と言へませう。此の力にも色々御座います。只今支那の大空に、神業よ驚異よと全世界のものを仰天させて居る大荒鷲の爆裂彈も、力であります。併しながら、より偉大なる力は『人の精神を高くする力』『靈性發揮の力』で御座います。又『惱みを癒す能力』『惡しみを融和する力』『世界の平和と人類の幸福を新たに生む力』これは實に絶大の力であります。

而してこの絶大の力は、御婦人に與へられて居るのであります。殊に母を離れては出て來ない事を知らねばなりません。神が女性を此世に送りたまへる聖意や實に宏大無邊であります。御婦人方の切に自重自愛を祈つて止まないのであります。

○

今や大事に際して國中毎日大さわぎして居りますが、眞の力はどこから湧き來るのか靜かに落ち着いて考へねばなりません。

何事を爲すにも、眞に婦人のうちにある、此の偉力を深くも知らずして、只狂奔するは愼むべき事であります。私は大聲疾呼天下に告げんとす。曰く、

『婦人の力を知らずして、施設する一切の經綸は、遂に空ら騷ぎとなり、骨折損のくたびれ儲けとなつてお仕舞になること』

を。

又甚だ失禮ながら御婦人自身も我の何者なるかを深く考へぬ人が夥しいが、これ實に寶の持ち腐れであります。權利放棄者であります。宗教的に申しますれば、神様は御自分では迚も手が屆かないから、此の世に婦人を送り、神の大業を代行させたまふのであります。

殊に『母』は天地の神の代行者であります。神様に代つて人類の將來を決定するものは誰であるか、必ずしも大政治家でもなく、權威者でもなくして、『母』であります。教育も『母』が無かつたら、どうすることも出來ない。學校の教育は僅かに母のお手傳ひを一割か二割しか出來ないのである。人の子は家庭でなくては、『母』なくしては、育たないのであります。人物は母からでなくては生れて來ないのであります。

今日の大急務は、國家も社會も『母』を起せであります。

○

少々荒づぽくきこえるかも知れませんが、支那の大問題も、誰がこれをうまく治める智慧と力を持つて居るでせうか。女性であります。『母』であります。『母性愛』であります。これ天地間最大の支配力であります。

鳥や獸の母は、己が本能を其の子に生みつけるのですが、人間の母は己が子供に最高の神の姿を與へるのであります。

支那人に神の姿を與へ得るものは女性である。母でなくては誰も出來ないのであります。

私が今日まで學びしところでは、婦人のうちには『母』が授けられて居ります。女性はベビーでも既に『母』を與へられて居ります。もつとよく調べましたら母

胎にあるうち既に『母』となりつゝあるのでせう。二歳にして枕をおんぶしたりして早や既に『育』てる姿が現はれ來る。この育てる姿は大慈大悲の觀世音の姿でないでせうか。語弊があるかしれませんが、さながら如來の動きではありますまいか。

女性のうちには私共男性の持たぬ生命の創造力が賦與されて居るのであります『母でないのに母となり得る、神の力』が豐かに惠まれて居る。興亞の原動力はこれであります。

私は信ずる、皆樣の御心が支那の婦人に比べて一分でも高かつたら如何に此の先大難が山と重なつても少しも恐るゝに足らぬのである。若し五厘でも先方が高いとしたら、こは實に容易ならぬ大問題である。深く御考へ願ひたいのである。

賢き女

○

主人が一日の働きを終へまして、或ひは外より歸宅いたしまして、思ひやり深い妻の笑顔を見るときは、終日勤勞の疲れも、負へる重荷も何處かに消え去ります。加之新しい且つ不思議な力が主人と妻との心に創り出されて、それまでなかつた新力が家庭に充ち溢るゝのであります。かくして力より力に、愛より愛へと進展するのであります。誠に主婦の心掛けよき平凡なる愛の微笑こそは人生歡喜の原動力であります。延いては新知識の源泉であります。

之に反して妻の不愉快な顔を見るは主人にとつて、實に大災難であります。負へる重荷は十倍百倍加つて行詰まつて仕舞ふ計りか精神的の死を來すのである。男子は女子の暗い顔を見た瞬間只暗くなるばかりか、惡魔に魅せられたと言ふ程、恐ろしい暗黑の勢力に組み敷かれ、其の暗き心の遣り場に困つて外に出で、酒の一杯も飲んで憂鬱を晴らすと言つたものとなり、一生取り返しのつかぬ大破壞が臨みます。これ夫婦の不幸のみか國家の破滅である。妻の微笑は理想の國の礎であります。

○

私は長い間この微笑なき婦人。光の直射なき不幸の家庭の造りし悲しき事實に度々出逢つて來たのでありますが、もとより夫の薄志弱行、其の無信仰と修養なきより茲に至りし事は申すまでもありませんが、この弱い夫を地獄に墮(おと)した大半は、婦人の大生命たる同情に乏しく、思ひやりなかりし妻にあることは勿論であ

ります。妻の不景氣な顔は地獄であります。

ある人々は、善良な妻は善良な夫に依つて造られると申します。私は今こゝで議論するのではありませんが、私の長年の經驗が教ゆるところでは、婦人のうちにはどんな男でも明朗になし得るめでたき力が惠まれて居るのであります。この力に惠まれてゐる故に、婦人と申すのであります。

○

婦人の婦の字は掃除から考へられたと言ひますが、さうかも知れません、併し女子は掃除人足として生れて來たものではありません。私の考ではどんな人生の暗黑も悲風慘雨も悉く婦人が追拂ひ得る力の所有主だと云ふ事から出來たものと思ひます。婦人には子供を生み、且つこれが養育を完ふし得る偉力が授けられて居りますが、實は夫を助けて眞の夫を完成し得る教育力をも授けられて居る者であります。善良な夫が良妻を造ると云ふよりも、良善の妻が理想の夫を創るのである。

私はかく信じて色々の困難と戰ふ婦人と相談して來ましたが、歳月を重ねてからなりの事實にも逢着し、愈々其の誤謬ならざるを知るに至りました。

人の妻たらん程のものは、この天授の能力を確く信じ、どんな暗い悲しい事でも、眞の婦人に由りて歡喜と感謝に取り換へ得るを信じ、勇んで人道のため貢献していたゞきたい者であります。

○

私の信するところでは妻には婚姻に際し、所謂二人の者一體とせらるゝとき、夫の心の凡てを神の次位に立ちて察知し得る、卽ち神の代行力とも云ふべきありがたき力が、新しく妻に惠まれるのであります。間違ひありません。

夫の勞苦に同情し、夫の事業に深き興味を持ち得る力が、妻に與へられるのである。人の親は我が子の婚禮には、力の限り事情の許す限りを盡して仕度するのであるが、實は天に於ては、簞笥長持衣裳鏡臺のそれよりも、絶大の能力を嫁がんとする女子に與へたまふのである。私共は謙つてこの天の父の御慈愛を思ふ信仰がなくてはならぬ。世に幾年も夫婦生活をつゞけたが、さつぱり主人の仕事に興味がないなどと申して居る婦人もありますが、これは變態心理である。少くともその一部分病的になつて居るのである。神様は正しき夫婦の成立つとき、必ずこの世に於て大成功し得る樣に嫁入仕度を豐かに與へて下さるのである。これを思ひ想はざる婦人は、大不幸であるばかりか、この不幸の女性のために夫は完ふせられず、壞されて仕舞ふのであります。どんな偉い夫でも、妻の同情なきところには何事も出來ぬのであります。太陽無くとも物は育つと云ふのが眞理である

ならば、私の考へは間違ひでせうが、妻の無理解の家庭に夫は精神的に伸び行く事は不可能であります。女子は人生の太陽である。殊に家庭の太陽であります。

○

失禮ながら今日のなま半可の教育を受けた女は、『個人の權利』がどうとか、『女の自覺』がどうとか、やかましい事を言つて力んで居りますが、かゝる人は、其の議論に丈け眞理があるので事實家庭は眞暗である。夫のためや家のため苦勞する樣な高き精神を缺いて居る者が少々でない。これはアメリカあたりのしかも皮相の宗教や教育感化の害毒であります。

私は今皆さんと共に古い古い『箴言』の終りにある『賢き女』を熟讀玩味して大に學ぶところがありたいと存じます。かうした古き眞理は今後も大に温ねたいと存じます。

箴言第三十一章

誰か賢き女を見出すことを得ん、
その價は眞珠よりも貴し、
その夫の心はかれを恃み、その産業は乏しくならじ、
かれが存命る間はその夫に善事をなして
惡き事をなさず、
彼は羊の毛と麻とを求め、喜びて手づから操き、
商賈の舟のごとく遠き國よりその糧を運び、
夜のあけぬ先に起てその家人に糧をあたへ、
その婢女に日用の分をあたふ、
田畑をはかりて之を買ひ
その手の操作をもて葡萄園を植ゑ

力をもて腰に帶し、その手を强くす、
彼はその利潤の益あるを知るその燈火は終夜きえず、
かれ手を紡線車にのべ、その指に紡錘をとり、
手を貧者にのべ、手を困苦者に舒ぶ、
彼は家人の爲に雪をおそれず、
蓋その家人みな菲紅の衣をきればなり、
彼はおのれの爲に美しき褥子をつくり、
細布と紫とをもてその衣とせり、
その夫はその地の長老とともに
邑の門に坐するによりて人に知るゝなり、
彼は細布の衣を製てこれをうり、
帶をつくりて商賈にあたふ、

彼は筋力と尊貴とを衣とし且のちの日を笑ふ、
彼は口を啓きて智惠をのぶ、
仁愛の教誨その舌にあり、
かれはその家の事を鑒み怠惰の糧を食はず、
その衆子は起て彼を祝す、
その夫も彼を讃ていふ、
賢く事をなす女子は多けれども
汝はすべての女子に愈れり、
艶麗はいつはりなり、美色は呼吸のごとし、
惟エホバを畏るゝ女は譽られん、
その手の撑作の果をこれにあたへ、
その行爲によりてこれを邑の門にほめよ、

この平易な言葉に依りて、現はれたる賢き女を熟讀玩味せんか。神は必ずその人の心の奥に大なる眞理を鏤刻したまふことを信ずるものであります。

詩篇第一二七篇には、女子たるものゝ最大名譽として子供を擧ぐる祝福が示されてをります。サムエル書及びルカ傳には、世界最大最優美の歌は懷姙の婦人より歌ひ出されるものなることが示されてありますが、箴言には神と人とに眞に喜ばるゝ婦人が示されてあります。誠にありがたき事であります。祈禱の精神を以て熟考したいものであります。新なる生命は必ず各々の靈性に臨むのであります。

難關を突破

イエス此を去てツロとシドンの地に往けるに、其地に住るカナンの婦いでゝ呼はり曰けるは、主よダビテの裔よ我を憫み給へ我むすめ鬼に憑れて甚く苦めり、イエス一言も彼に答ざりしかば其弟子きたり請て曰けるは我儕の後より呼はるが故に、彼を去せ給へ、答て曰けるはイスラエルの家の迷へる羊の外に我は遣されず、婦きたり拜して曰けるは主よ我を助たまへ、答けるは兒女のパンを取て犬に投與ふるは宜からず、婦いひけるは主よ然されども犬もその主人の膳より落る屑を食なり、遂にイエス答て曰けるは婦よ爾の信仰は大なり願の如く爾に成べし此時より其女いえたり。

一國興亡盛衰の理を研究致しますれば、人類永遠の勝利となるものは『信仰の力』である事が明かに示されて居ります。信仰とは空漠たるものではなくして、事實であります。私が年來何が故に聖書の心讀を力說するかと申せば、聖書にはこの永遠の勝利であり、事實であり、力である『信仰』が、富士山の如く聳え立つて居る計りか、如何にしてこの確信が人のうちより生れ來るか、どうすれば『信仰』が働くのか、その根柢が幾千年の長き歷史を通じ又夥しき信仰の英雄の活ける事實を以て示されて居るからであります。人生は事實である。いとも嚴肅なる事實である。こゝは空論家入るべからずの活戰場であります。

○

このマタイ傳第十五章に現はれて居るカナンの婦人の信仰は學ぶべきもの多く、古來多くの人々が研究致しまして、少からず人心を鼓舞振作せしめた貴重のものであります。

私も昔秋吉山の日曜禮拜に數回色々の角度からこの婦人の事を述べ、又拙著の

中にも再三書きまして、惠まれました人々は少くないのであります。從つて私の友人の中から起つてこの婦人の信仰を受け繼いで只今活躍して居る人も澤山居らるゝのであります。誠に一人の眞實の信仰の功德は萬人に良善の感化を及ぼす人生の至寶、感謝の至りで御座います。

私が年來婦人のうちには實に不可測の偉力が與へられて居る。眞の婦人の清純なる信仰こそは、新なる世界を創り出すと叫んで居る譯は實はこの婦人やサラ或はルッ等に由りて、婦人の何であるかを悟りしもの、學びしものが少くないのであります。箴言に『賢き婦はその夫の冠辨なり』と御座いますが、私は斷言致します。信仰ある眞の婦人は全世界と全人類の榮冠なることを。

○

人類の生活上、眞の幸福が直ぐ來さうで來ないのは、婦人がまだ眞に理解されて居らぬからであります。世界の平和がどんな智者と學者と此の世の論者たちが、大會議を重ねても實現せないのは大なるものが落ちて居る。大なるものとは、何か、婦人の事であります。世界を治めんと欲せば全世界よりも大なるものを知らねばならぬ。不可能事を成し遂げしむる偉力を知らねばならぬ。言ふまでもなく世界より偉大なものは愛であります。而して眞の婦人はその愛の持ち主、少くとも其の萠芽の惠まれぬしであります。この神々しき婦人を完成するために、もつと世界中のものは力を盡さねばならぬ。

婦人が信を起すとき、どうした働きが起るか。婦人が天地の眞人キリストに觸るゝと、どうなるのか、このカナンの婦人がよくこれを證明して居るのであります。

今皆様と共に信眼を開きて、カナンの一婦人が不幸精神病に惱む娘を負ひ、所

謂牛に牽かれて善光寺詣りの様に、人生の難道を辿る事が機縁となりキリストに近づき其の純信を祝して心躍らすキリストの同情に漲る姿。子を思ふ心に海も山もなく、幾多の難關を突破して遂に神に達する熱心そのものゝ婦人の姿を通じて深く學びたいものであります。

○

宗教はある意味に於ては、Response、レスポンスであります。『應答』であります。信仰は當方の出様で先方が様々に其の返答が變化すると言へる。即ち信仰は當方の努力と先方の應答的努力の合作なのであります。人信を起し、神之を嘉したまふと云つた、心海の龍卷である。私は幼少の頃北越の海邊に育てられた者でありますが、この海岸には初冬の頃になりますと迚も大荒れがあります。大風襲ひ來らんとする時、佐渡の島や能登の方の沖合に當りまして、恐ろしい龍卷が始まり、一天暗黒天地に下りしか地天に上りしか、迚も一大壯觀海にありては漁舟を吊り上げ、吹き飛ばし、陸に上りてはあらゆる樹木や人家を吹き飛ばすので、私の頭の中にそのまゝの偉觀が鏤刻されて居ります。のち信仰の事を考ふるに至り、眞の信仰はこれだなと今も龍卷に教へられて居ります。信仰は區々たる小理窟ではない、學問でもない、我起つて神にぶつかるのである。神起つて我を吊り上げるのである。神と人との合作である。

○

又信仰は語弊はありませうが、『征服』であります。『高峰の乘り越へ』なのであります。この心得なきものは、信仰の特權も宗教の妙味も味へる者ではありません。このカナンの婦人が大膽不敵にも次ぎ〳〵に幾多の高峰を乘り越へ、常人の越え難き障碍と困難を征服し、女性と云ふ大鑛山の中に、賦與せられある種々

の鑛物を採掘して我等に示した姿は、實に信仰戰の一大壯觀であります。これ實に人類永久の感謝である。今日婦人問題がどうのかうのと言つて居る人々の言ふを聞けば、憐れむべし彼等は少しも婦人其者を知らぬのである。又信仰など藥にしたくとも持ち合せの無い徒輩である。この輩は所謂盲人の手引で共に溝渠に落ち込むの外は無いのである。

○

このカナンの婦人は先づ常人の金縛りとなり、停止を食つて動けなくなつて仕舞ふ民族根性を突破したのであります。實に雄々しい姿を示して居ります。今日の文明人だなどと力んで居る人々でも、國々でも、米國は米國に、英國は英國に縛られて天地の大道に勇進することが出來なくなつて居る。彼等はよろしくこの婦人に學ぶべきである。

御存知の通りカナン人はパレスチナに於ては、イスラエル人よりも先住者であります。商賣其の他色々の事からして、海岸地方に居るフエニキヤ人と古くから交通いたしまして、當時世界第一等のギリシヤの文明に觸れた中々ハイカラの人民でありました。惡く言へばいつまでも地上計りを匍匐して牧草を追ひつゝ轉々遊牧、其の居定まらずと言つたイスラエル人とは趣味も合ひませんし、又私共の知り得ざる宗教關係もありまして交際しなかつた樣であります。

然るにこの婦人はかゝる困難な民族的感情を乘り越へて、全信賴をイエスに投げ懸け、物凄い勢を以てイエスに近付き來つたのであります。

今日の宗教や教育にたづさはつて居る人々は、よく他人の美點を認めるなどと申しますが、大概は嫉妬なので、これは容易の事ではありません。眞に他人の美點を認めることの出來る人は偉らい人である」。イエスの偉大を認めたものゝ中に

この婦人は實に第一位を占める人であります。私が昔からこの婦人に敬服して居る點は、實に茲にあるのです。『カナンの婦いでて呼ばはり曰けるは主よダビデの裔よ我を憫みたまへ』何たる雄々しき大なる全信賴ぞや。東京で今これを讀んでは左程に感じないのであるが、この時この場合大衆環視嘲罵の中に主よダビデの裔よと叫び出す丈けでも生命がけどころか、山を海に移すより大なる信仰である。めでたき事の限りであります。

今や全世界最大の使命を負へる我國民は、此の一婦人が大なる民族的感情を乘り越えてイエスに來りし大信に學ばねばならぬ多くのものがある。私共は祖國愛に燃ゆると共に、起つて世界人類の凡ての兄弟となり得る精神、姉妹となりきる精神を持たなくては役に立たぬ時とはなつたのである。

○

更らに私が敬服して居ることは、此の婦人がイエスに來つたのは、イエスを何も知らぬのであります。只深くイエスを信じたのであります。今日の人々は信仰と調査をごたまぜにして居る。信仰は神樣調べではないのであります。『信仰』はある意味では經驗を越えて仕舞ふ。否信仰は調査や經驗を無視もしますまいが、そんなものよりも、見ぬものを眞實とする、信ずる事に依つて大膽に經驗するのであります。

私共は色々の事を識つたり學んだり調べたりするよりも、イエスを信ずる信仰に生きる者とならねばならぬ。でないと、がらくた道具計り山と積んで空ら騷ぎで一生を棒にふつて仕舞ふ。我國にも實に情けない、がらくた道具的信者と稱する輩があまりに多過ぎる。

○

更らに驚くべきは此のカナンの婦人はイエスの拒絶を突破して進んだ。神に到るの道には色々の障碍がある。而して一番困難はかうした周圍の取りまき連であるが、婦人は斷乎としてこれを排斥して進んだのである。

弟子達が婦の叫ぶのをうるさがつて、追ひ拂つて下さいと騒いだ事が只今讀みましたところに詳記されて居りますが、婦人は一擊之を粉碎して進んだのである。確信は一面には神も如何ともし難い猛烈な力である。

私の許へ返信料封入でいつ行つたら面會出來るかとか、或ひは電話などで樣々の水臭き事を申し込んで來る人が迚も多い。愼むべき事であります。

苟も道に志す程の者は、問合せだの、返信だの、御紹介だの、無愛想だの、そんな下らない事に躓いて居てはならぬ。『求めよさらば與へられん』これが天地の大法である。神に到るの道は、この婦人が活模範であります。これに從ふべきである。

○

次に私が昔からこれは偉らいと叫んで居ますのは、この婦人が弟子たちの排擊突破に次いで更らに大難關を見事に突破したことであります。卽ちイエス自身にも顧みられない、イエスの默殺にも打ち勝つて進んだのである。聖書には『イエス一言も答へ給はず』と誌されて居る。これをも乘り越えたのであります。

大なる信仰には大なる峻嶺がある、私共は之を越へねばならぬ。

この姿をよくよく見ますと、少々亂暴な言ひ方ではあるが婦人がイエスを引きずつて更らに天高く飛翔し行く偉らい姿が見える。私共は神樣を拜んで計り居らないで時には神にぶつかり、未だ嘗て地球上に現はれ居らざる新しい神を發見する程の熱信がなくてはならぬ。語弊はあらうが、新しき神を創らねば役に立たぬ。

視よ、この婦人の熱誠純信に出會つて、イエスも婦人も新しく創られたのである
實に生命の一大壯觀である。

あゝ、難關を次ぎ〳〵に越えた婦人の信仰を、イエスが喜んで大なる信仰と賞されたのは尤も千萬な事であります。病氣癒えしどころか、天地の大合奏一大聖樂が永劫の彼方にまでなり轟いたのである。何たる信仰の偉觀ぞや。

昭和十八年七月十五日印刷
昭和十八年七月二十日發行（三、〇〇〇部）

（出文協承認イ170450號）

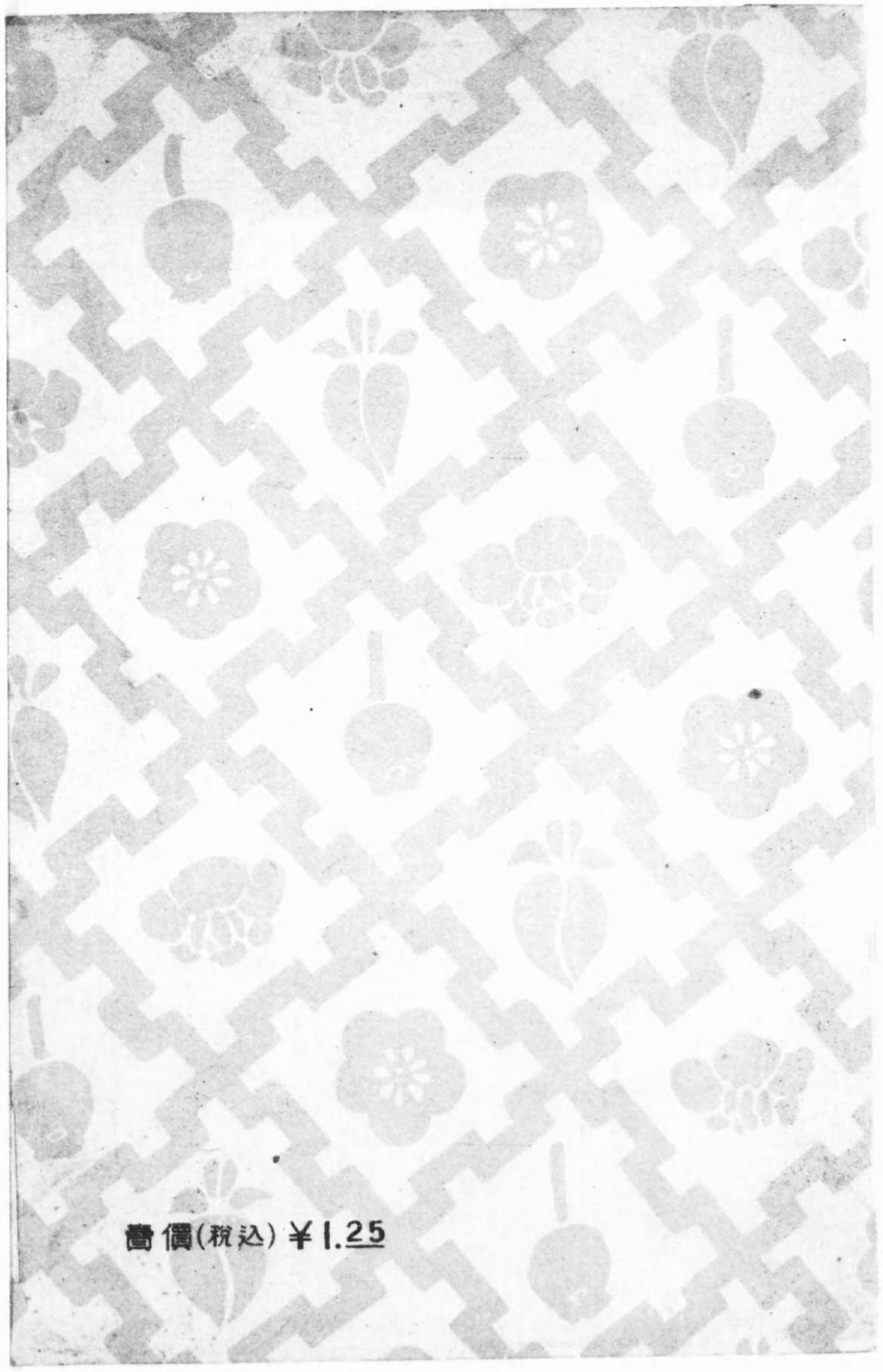
協和書房

婦人の神祕

定價 一圓二十錢
行爲稅相當額 五錢
合計金一圓廿五錢

著者 東京都日本橋區兜町二丁目二四 本間俊平
發行者 東京都神田區神保町一丁目五六 瀨尾一雄
印刷者 東京都日本橋區兜町二丁目二四 川端德三
發行所 東京都日本橋區兜町二丁目二四 協和書房 振替東京一八五四六九番
配給元 東京都神田區淡路町二ノ九 日本出版配給株式會社
（會員番號一〇七一一三番）

東京 一九九

438
46

終